小學唱歌集

初編

文部省音樂取調掛
編纂

唱歌集

初編

明治十四年十一月刊行

緒言

凡ソ教育ノ要ハ徳育智育體育ノ三者ニ在リ而シテ小學ニ在リテハ最モ宜ク徳性ヲ涵養スルヲ以テ要トスヘシ今夫レ音樂ノ物タル性情ニ本ツキ人心ヲ正シ風化ヲ助クルノ妙用アリ故ニ古ヨリ明君賢相特ニ之ヲ振興シ之ヲ家國ニ播サント欲セシ者和漢歐米ノ史冊歴々徴スヘシ曩ニ我政府ノ始テ學制ヲ頒ツニ方リテヤ已ニ唱歌ヲ普通學科中ニ

掲ケテ一般必須ノ科タルヲ示シ其教則綱領ヲ定ムルニ至テハ亦之ヲ小學各等科ニ加ヘテ其必ス學ハサル可ラサルヲ示セリ然シテ之ヲ學校ニ實施スルニ及ンテハ必ス歌曲其當ヲ得聲音其正ヲ得テ能ク教育ノ真理ニ悖ラサルヲ要スレハ此レ其事タル固ヨリ容易ニ擧行スヘキニ非ス我省此ニ見ル所アリ客年特ニ音樂取調掛ヲ設ケ充ルニ本邦ノ學士音樂家等ヲ以テシ且ツ遠ク米

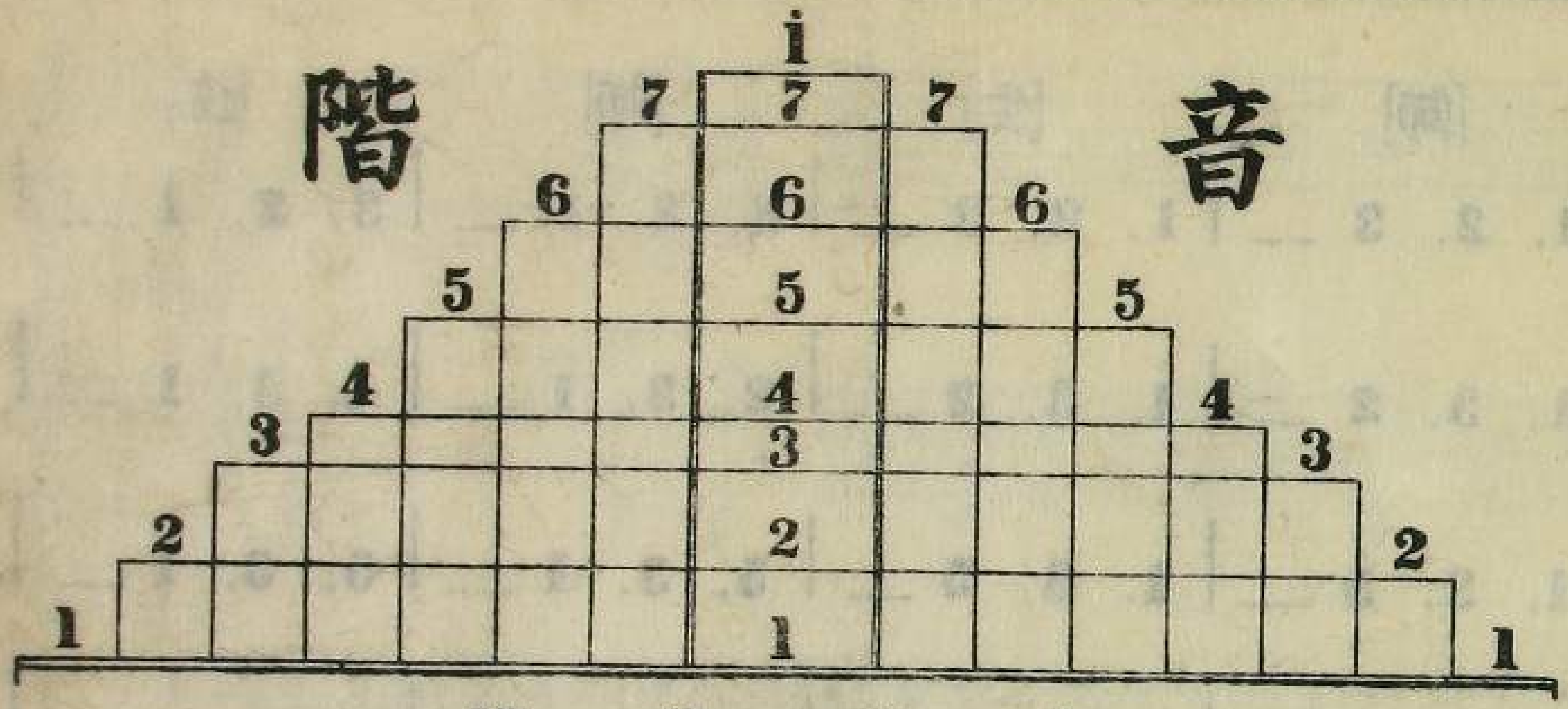
國有名ノ音樂教師ヲ聘シ百方討究論悉シ本邦固有ノ音律ニ基ツキ彼長ヲ取リ我短ヲ補ヒ以テ我學校ニ適用スヘキ者ヲ撰定セシム爾後諸員ノ協力ニ頼リ稍ヤク數曲ヲ得之ヲ東京師範學校及東京女子師範學校生徒并兩校附屬小學生徒ニ施シテ其適否ヲ試ミ更ニ取捨選擇シ得ル所ニ随テ之ヲ録シ遂ニ歌曲數十ノ多キニ至レリ爰ニ之ヲ剞劂ニ付シ名ケテ小學唱歌集ト云是レ固ヨ

リ草創ニ屬スルヲ以テ或ハ未タ完全ナラサル者アラント雖モ庶幾クハ亦我教育進歩ノ一助ニ資スルニ足ラント云爾

明治十四年十一月

音樂取調掛長
伊澤修二　謹識

音階

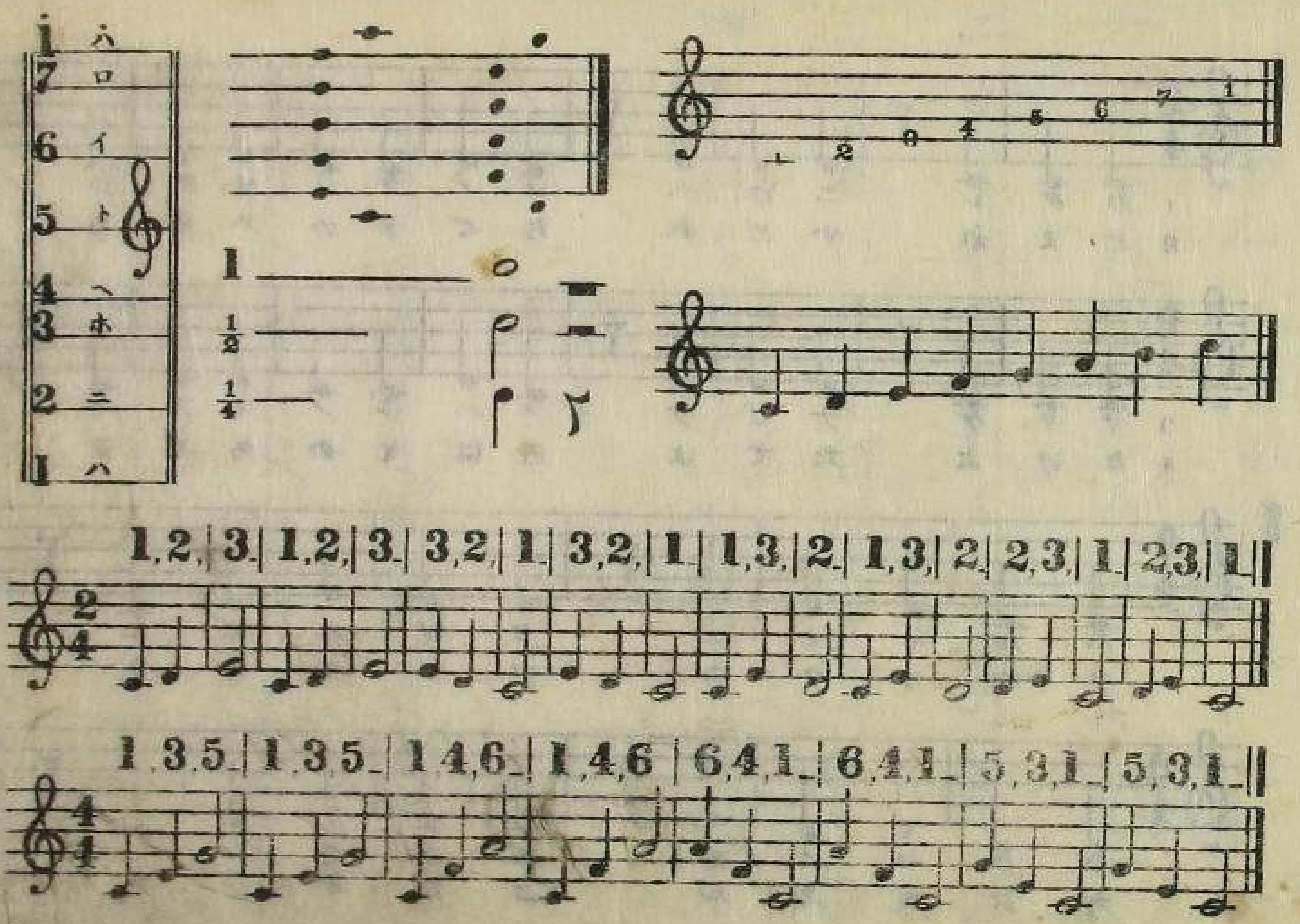


音階練習

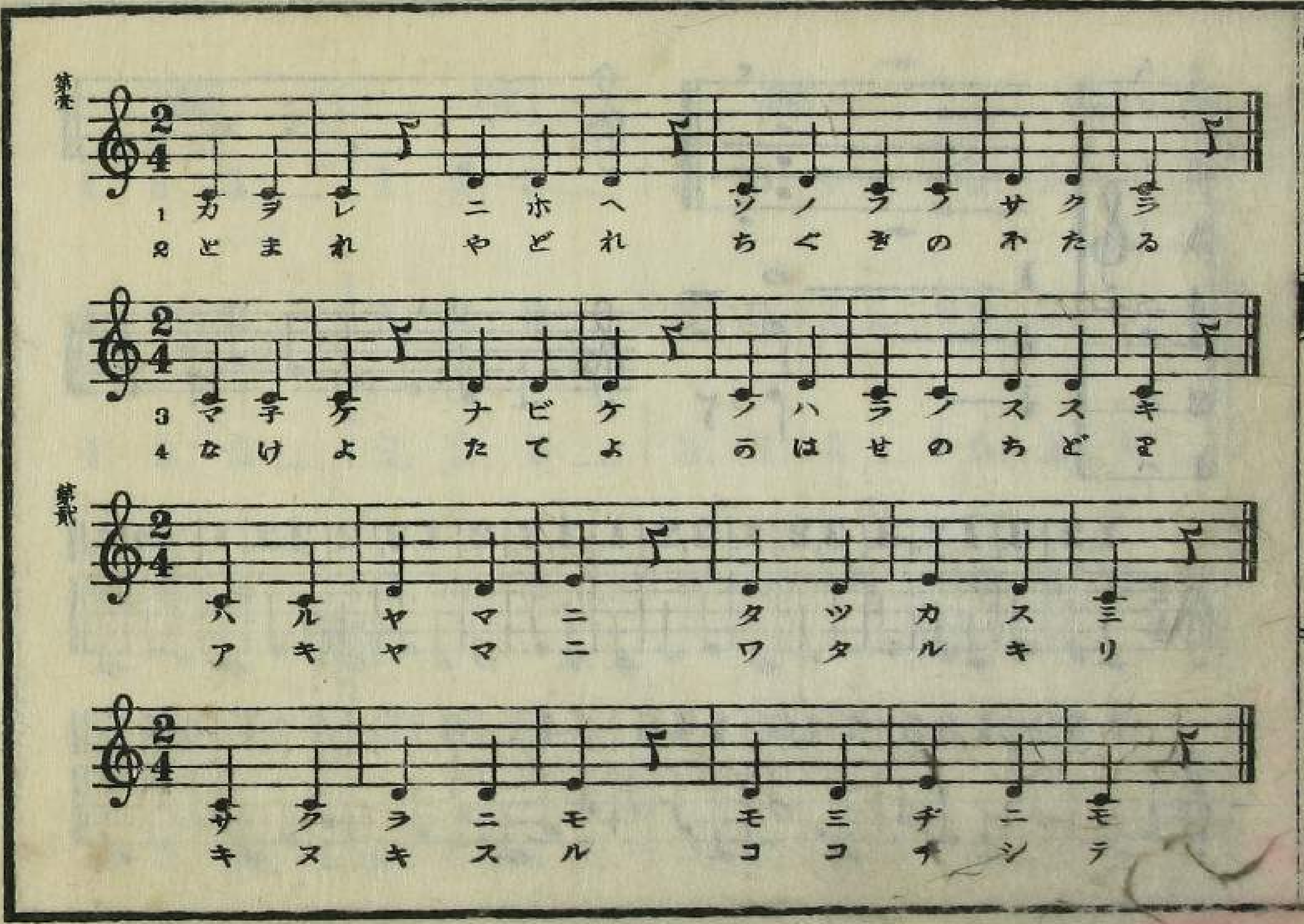
(一) 1,2 _ 2,1 _　(二) 1,2,3 _ 3,2,1 _　(三) 1,2,3,4 _ 4,3,2,1 _

(四) 1,2,3,4,5 _ 5,4,3,2,1 _　(五) 1,2,3,4,5,6 _ 6,5,4,3,2,1 _

(六) 1.2.3.4.5.6.7.1̇ _ 1̇.7.6.5.4.3.2.1 _



[師]	[生]	[師]	[生]
1, 2, 3 —	1, 2, 3 —	3, 2, 1 —	3, 2, 1 —
1, 3, 2 —	1, 3, 2 —	2, 3, 1 —	2, 3, 1 —
1, 3, 5 —	1, 3, 5 —	5, 3, 1 —	5, 3, 1 —
1, 4, 6 —	1, 4, 6 —	6, 4, 1 —	6, 4, 1 —
[師]		[生]	
1, 3, 5, 5,	1, 3, 5 —	1, 3, 5, 5,	1, 3, 5 —
5, 3, 1, 3,	5, 3, 1 —	5, 3, 1, 3,	5, 3, 1 —



第一 かをれ

一 かをれ。にほへ。そのふのさくら。
二 とまれ。やどれ。ちぐさのほたる。
三 まねけ。なびけ。野はらのすゝき。
四 なけよ。たてよ。かは瀬乃ちどり。

第二 春山(はるやま)

はるやまに。たつかすみ。
あきやまに。わたるきり。
さくらにも。もみぢにも。
きぬきする。こゝちして。

第三 あがれ

一 あがれあがれ。廣野のひばり。
二 のぼれのぼれ。川瀬の若鮎。

第四 いはへ

一 いはへいはへ。きみが代いはへ。
二 しげれしげれ。ふたばの小松。

第五 千代に

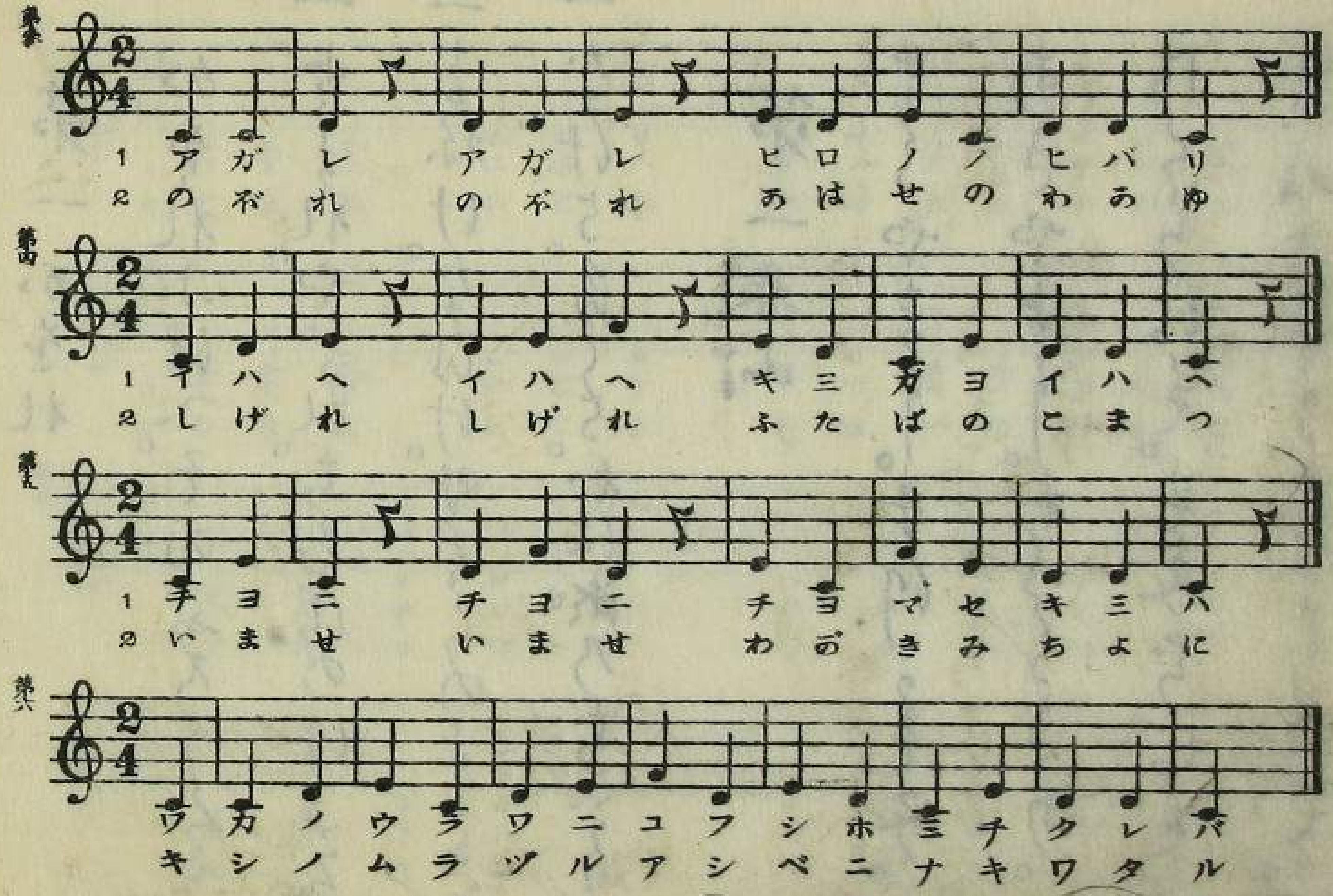
一 ちよにちよに。千代ませきみは。
二 いませいませ。わが君ちよに。

第六 和歌の浦

わかの浦わに。夕しほみちくれバ。きしのむら鶴。あしべになきわたる。

音樂取調掛

小學唱歌集



音樂取調掛

第七　春は花見

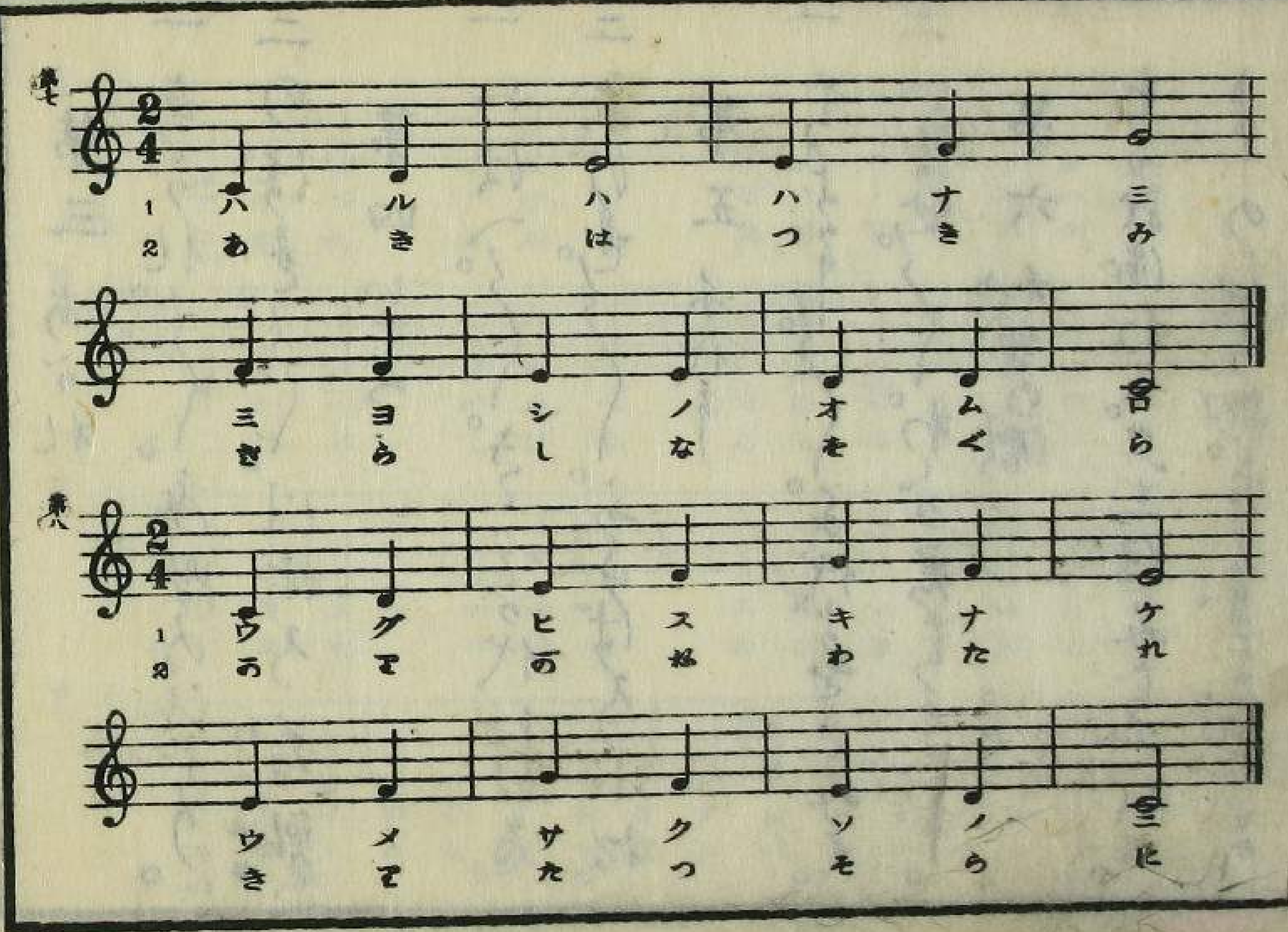
一　はるは。はなみ。みよし野。おむろ。

二　あきは。つきみ。さらしな。をぐら。

第八　鶯(うぐひす)

一　うぐひす。きなけ。うめさく。そのに。

二　かはごの。わかれ。霧(きり)たつ。そらに。



第九　野邊に

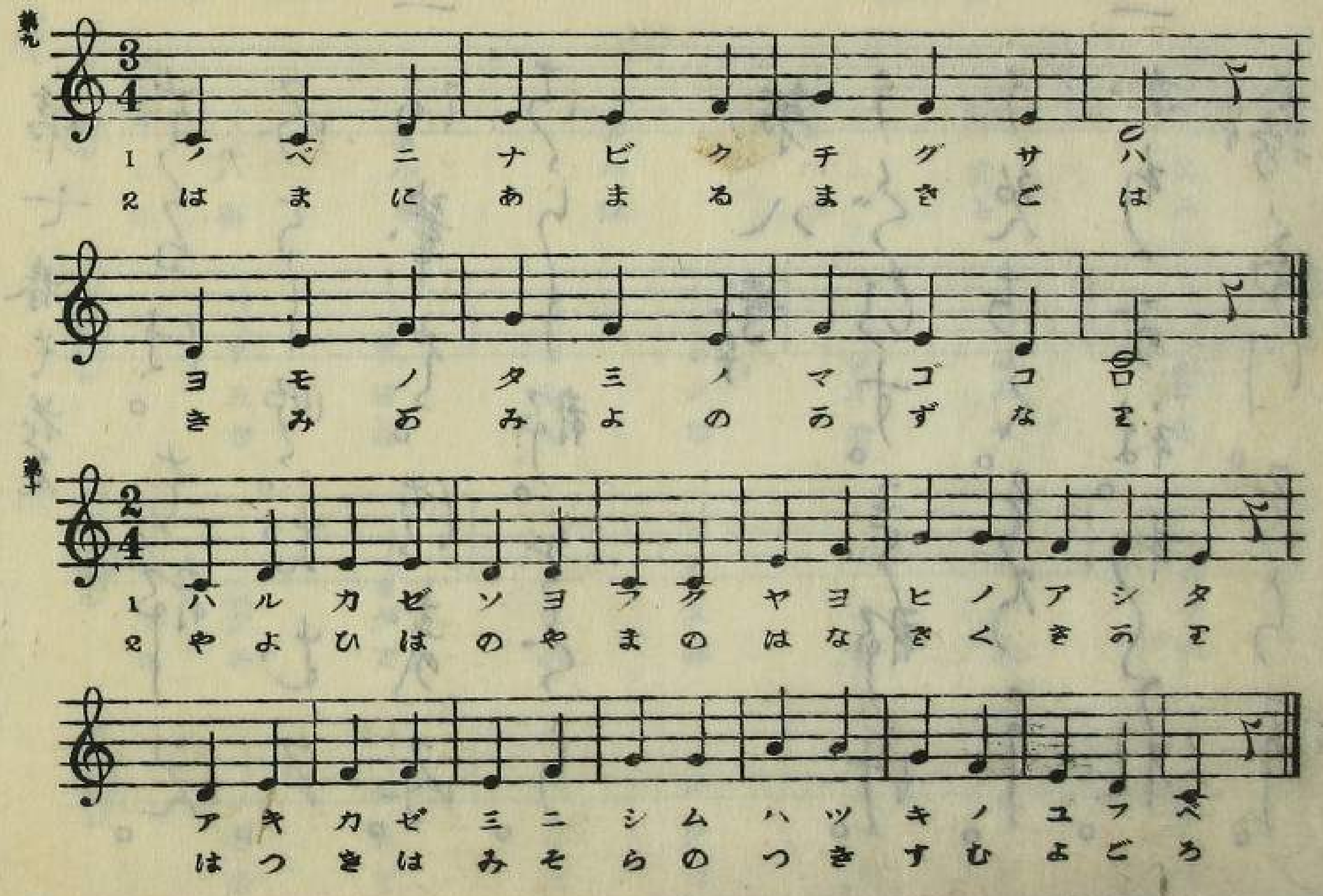
一　野邊に。なびく。ちぐさは。四方の。民の。まごころ。

二　はまに。あまる。まさごは。君が。みよの。かずなり。

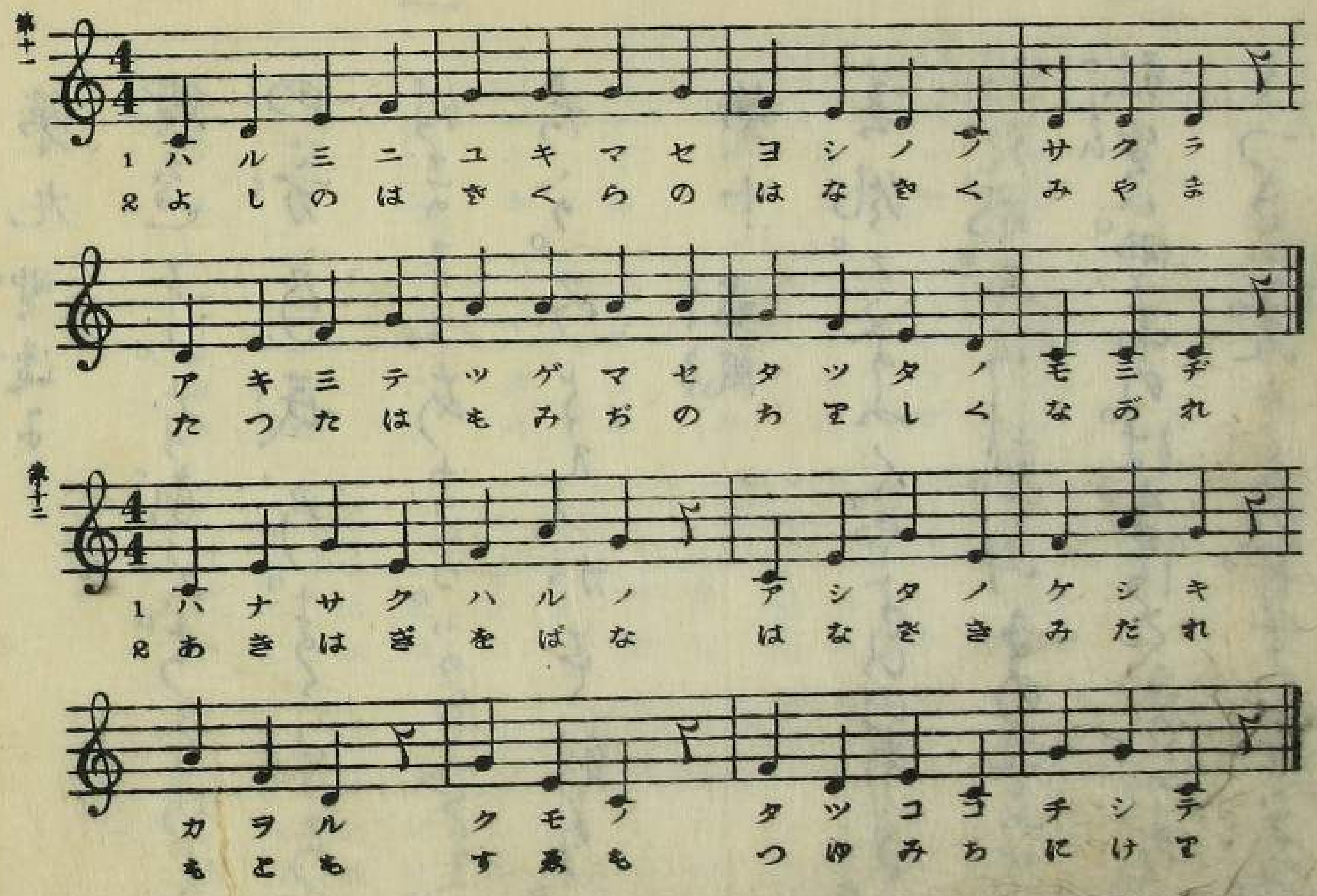
第十　春風

一　春風。そよふく。やよひのあした。秋風。みにしむ。はつきのゆふべ。

二　弥生は。野山の。はなさくさかり。はつきは。みそらの。月すむ夜ごろ。



小學唱歌集 音樂取調掛



小學唱歌集

第十一　桜紅葉（さくらもみぢ）

一　春見に。ゆきませ。吉野（よしの）乃桜。
あきみて。つげませ。龍田（たつた）のもみぢ。

二　よし野は。さくらの。花さくみやま。
たつたは。紅葉（もみぢ）の。ちりしくながれ。

第十二　花さく春

一　花さく。はる乃。あしたのけしき。
かをる。雲乃。たつこゝちして。

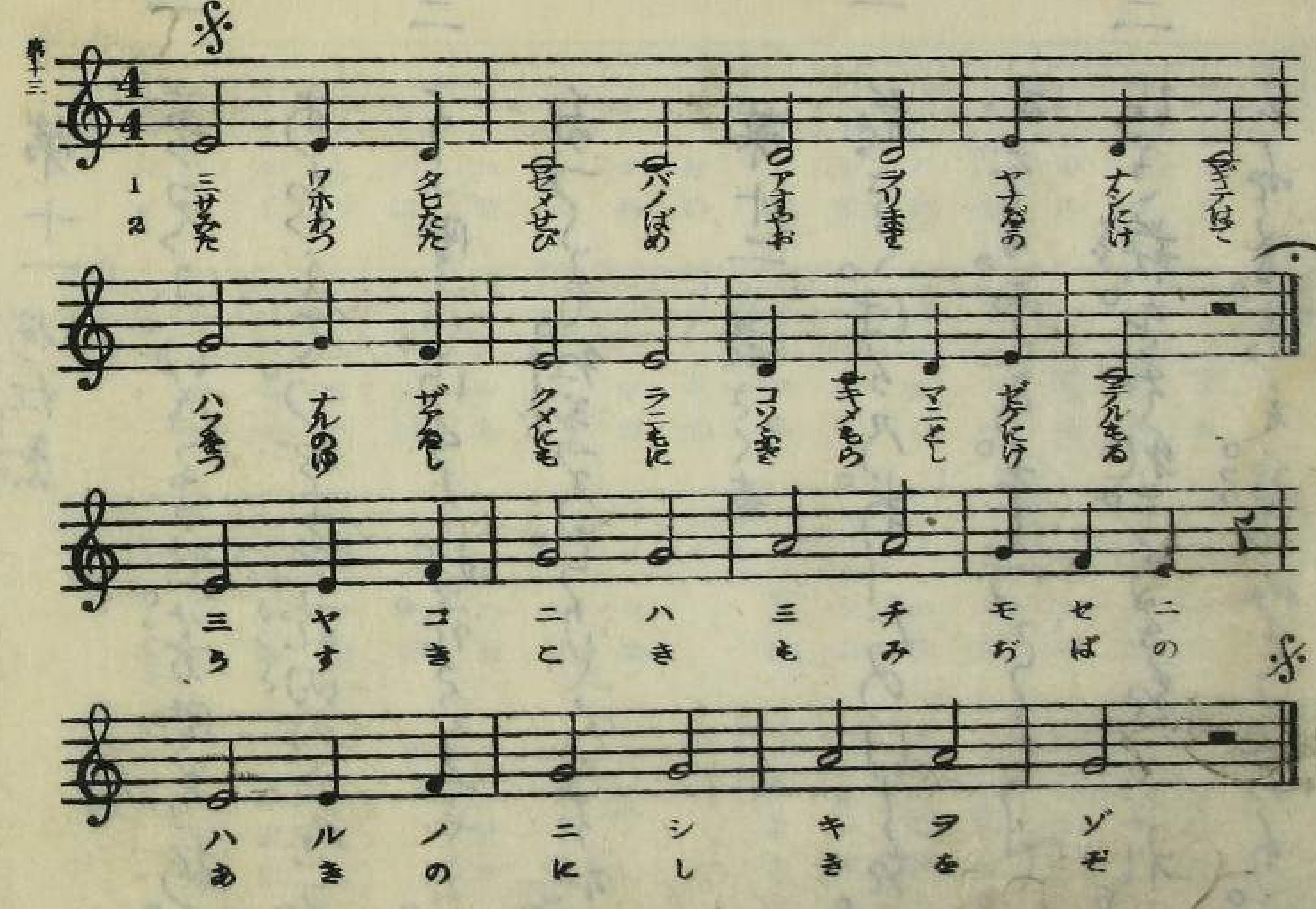
二　あき萩（はぎ）。をばな。はなさきみだれ。
もとも。末も。露（つゆ）みちにけり。

音樂取調掛

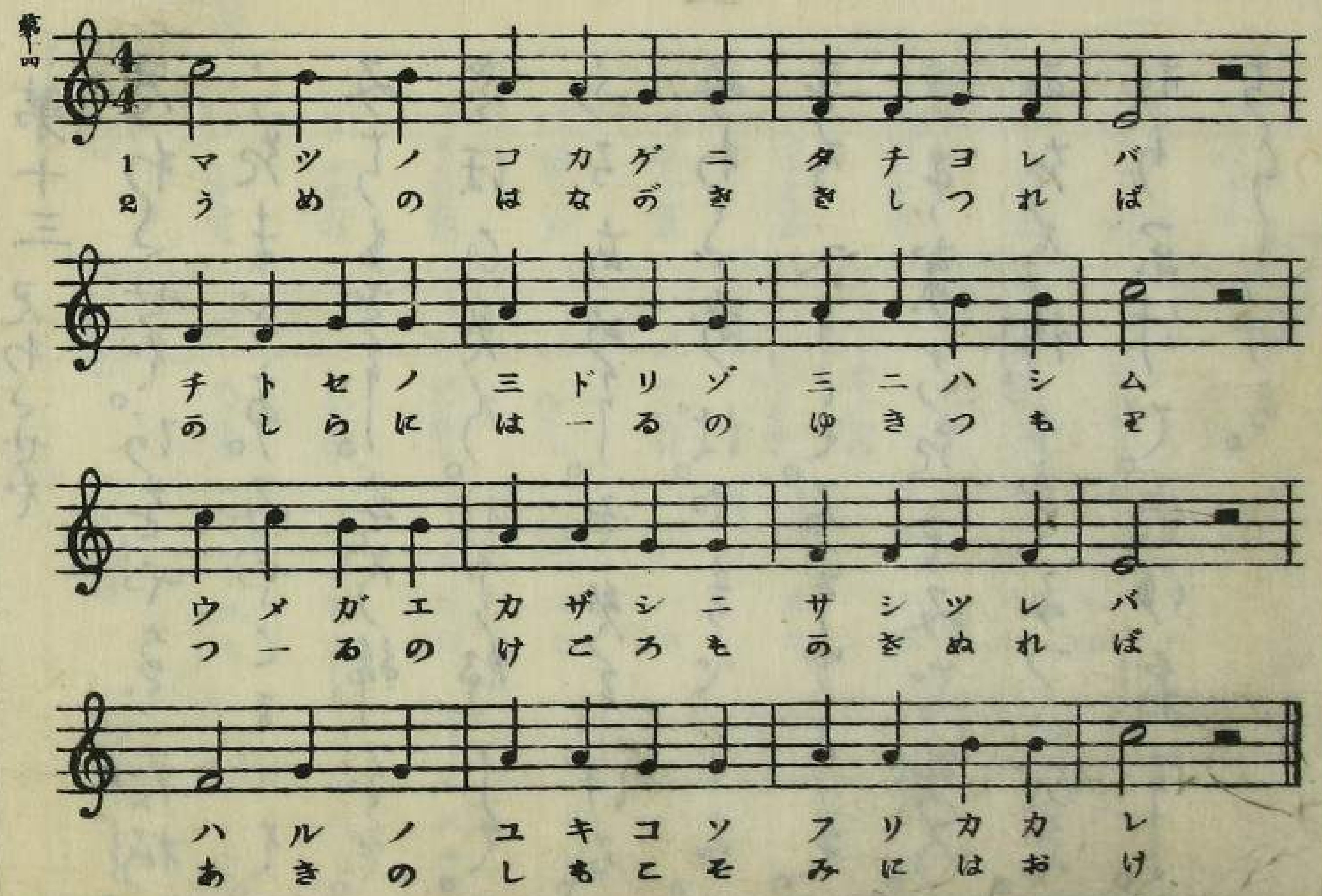
第十三　見わたせば

一 見わたせば。あをやなぎ。花櫻。
こきまぜて。みやこには。
みちもせに。春の錦をぞ。
さほひめの。織なして。
ふるあめに。そめにける。

二 みわたせば。やまべには。
をのへにも。ふもとにも。
うすきこき。もみぢ葉の。
秋の錦をぞ。たつたひめ。
おりかけて。つゆ霜に。
さらしける。



小學唱歌集
音樂取調掛



第十四　松の木蔭(こかげ)

一
松のこかげに。たちよれば。
ちとせのみどりぞ身にはしむ。
梅がえかざしに。さしつれば。
はるの雪(ゆき)こそふりかかれ。

二
うめのはなぞの。さきしつれば。
かしらにはるの。ゆきつもり。
鶴(つる)のけごろもぞ。かさぬるぞ。
あきの霜こそ。身にはおけ。

第十五 春のやよひ

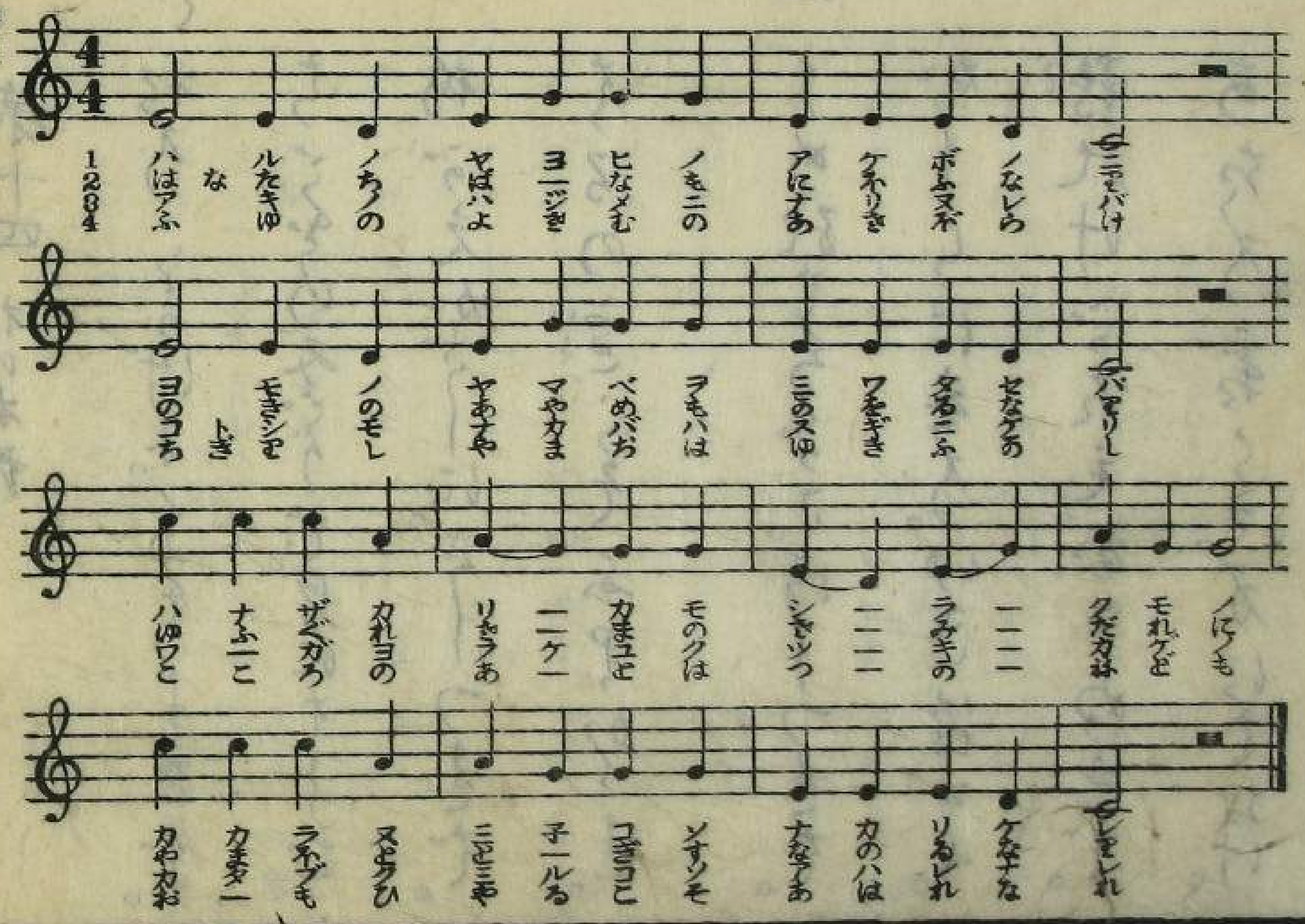
一 春のやよひのあけぼのに。四方の山べを見わたせば。花ざかりかもしらくもの。かゝらぬみねこそなかりけれ。

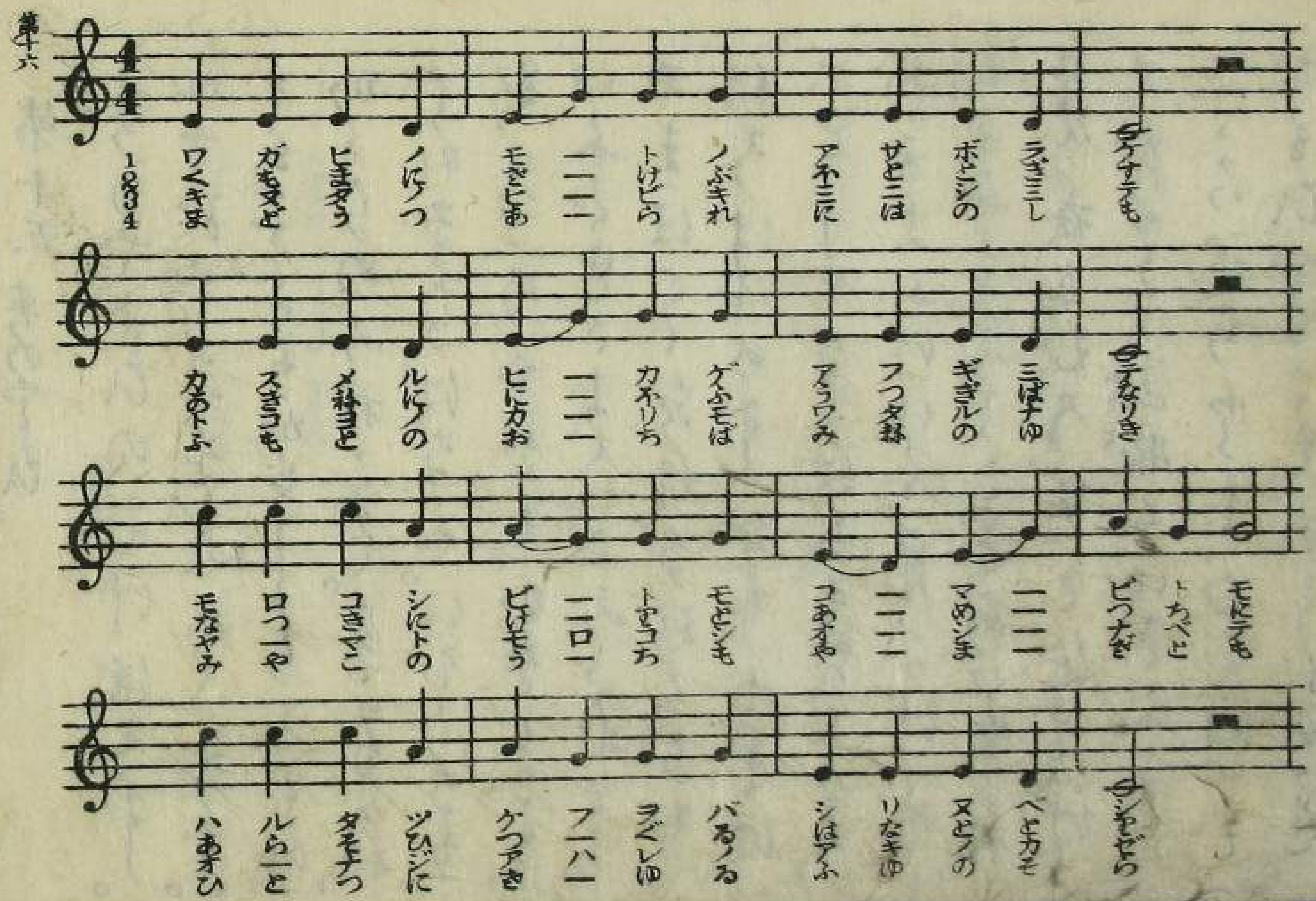
二 花たちばなもにほふなり。軒のあやめもかをるなり。ゆふぐれさまのさみだれに。やまほとゝぎすなのるなり。

三 秋のはじめになりぬれば。ことしもなかばはすぎにけり。わがよふけゆく月かげの。かたぶくみるこそあはれなれ。

四 冬の夜さむのあさぼらけ。ちぎりし山路はゆきふかし。こゝろのあとはつかねども。おもひやるこそあはれなれ。

第十五





第十六　わが日の本

一　わがひのもとの。あさぼらけ。
このすめる日かげ。あふぎこそ。
そらうらゝ人ぞ。靈びかりぞ。
喜寿けくふなぞ。ちすゞぬべし。

二　雲間をさけぶ。ほふらくかに。
かきつばたにほふ。うはなぞはれ。
夜深きけはひ。あめつちに。

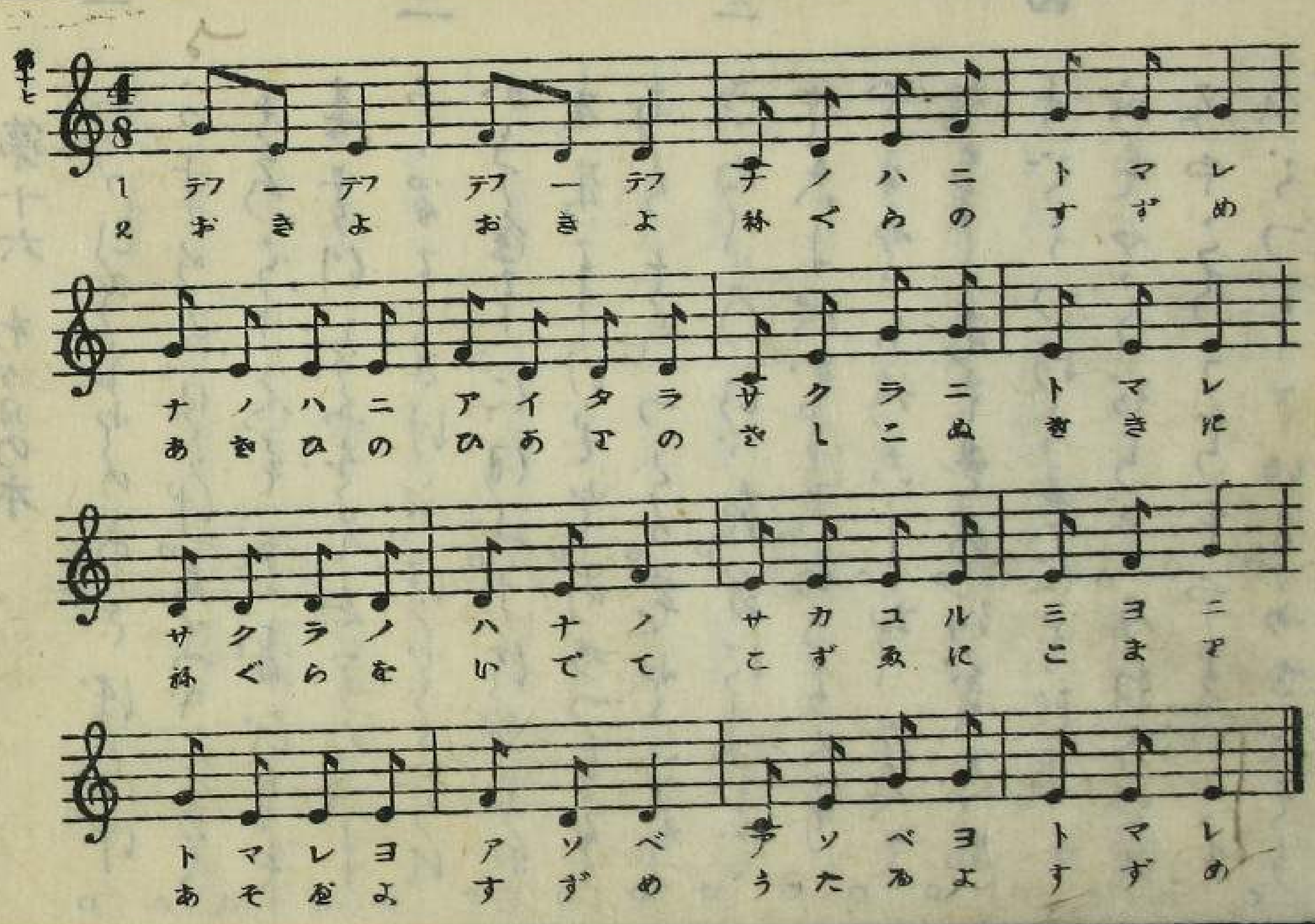
三　あらそひつゞる。花やこれ。
きぬきのひかり。月にしこそ。
ゆきはよれかまそ。わするゝなり。
やまかはも語しおしなべて。

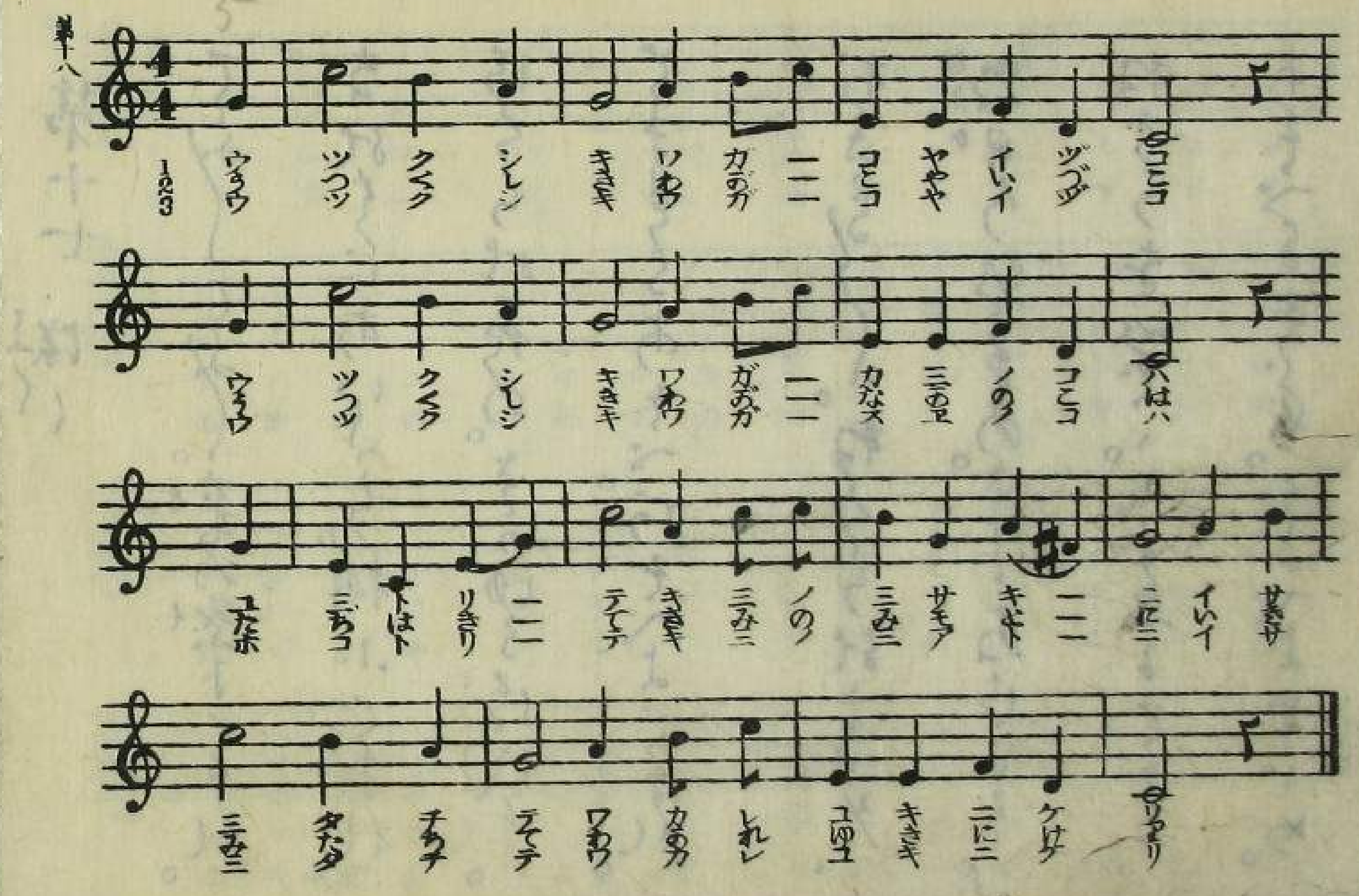
四　おほじあきつの。旅の風。
まごころつらぬき。にこれしそ。
ふそやまの。おちたる。みねのゆき。
みやこのうちぞ。やまげかぞ。
ひかりさゆる。ふゆのそら。

第十七　蝶々

一　てふてふ。てふてふ。菜の葉にとまれ。なのはにあいたら。桜にとまれ。さくらの花の。さかゆる御代に。とまれよあそべ。あそべよとまれ。

二　おきよおきよ。ねぐらのすゞめ。朝日のひかりの。さゝぬそのさきに。ねぐらをいでゝ。こずゑにとまり。あそべよすゞめ。うたへよすゞめ。





第十八 うつくしき

一 うつくしき。わが子やいづこ。
うるはしき。まごのかみね子は。
ゆみとりて。あたうちにゆけり。
いさみたちて。わかれゆきにけり。

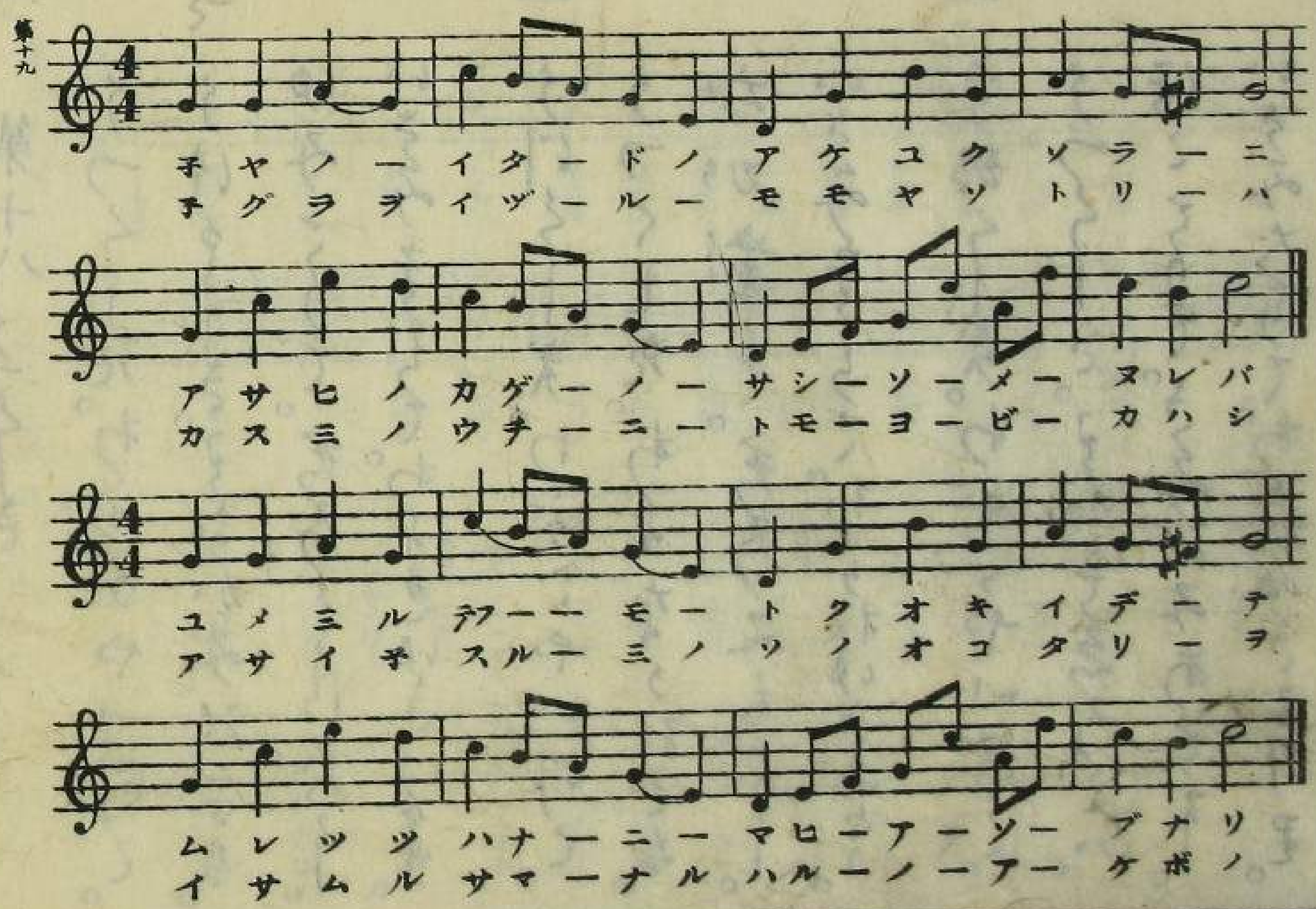
二 うつくしき。わがこやいづこ。
うつくしき。わがなつねこそ。
大刀帯て。あたうみもとめ。
いさみたちて。わかれゆきふたり。

三 あつくしけ。わがこやいづく。
うつくしき。まがきのつこは。
ほことりて。きみねみあそび。
いさみたちて。わかれゆきにけり。

小學唱歌集 初編

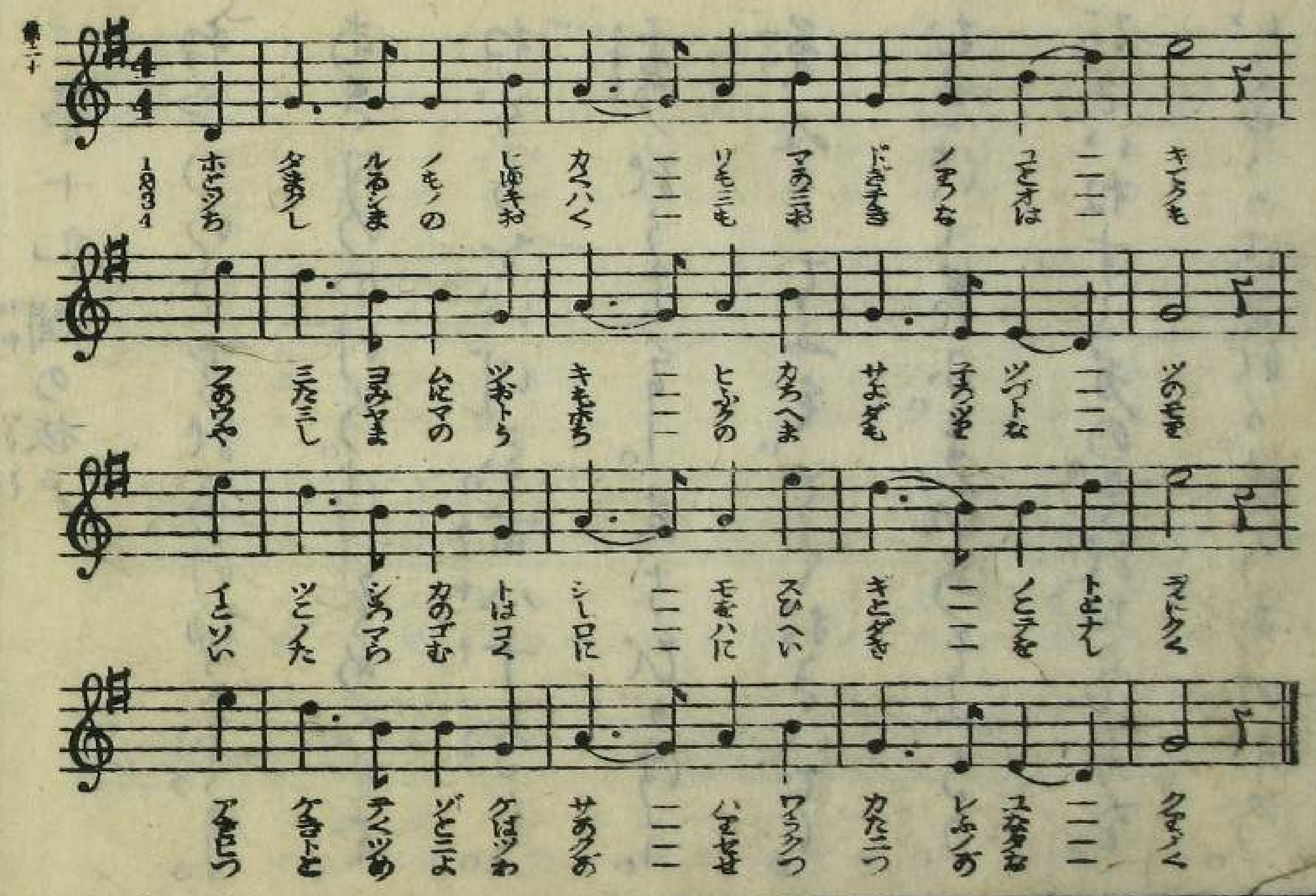
音樂取調掛

第十九



第十九　閨の板戸

ねやのいたどの。あけゆく空に。
あさ日のかげの。さしそめぬれば。
ねぐらをいづる。百八十鳥も。
霞のうちに。友よびかはし。
夢みるてふも。とくおきいでて。
むれつゝ花に。まひあそぶなり。
あさいねする身の。そのおこたりを。
いさむるさまなる。春のあけぼの。



第二十 螢

一 ほたるのひかり。まどのゆき。書よむつき日。かさねつゝ。いつしか年も。すぎのとを。あけてぞけさは。わかれゆく。

二 とまるもゆくも。かぎりとて。かたみにおもふ。ちよろづの。こゝろのはしを。ひとことに。さきくとばかり。うたふなり。

三 つくしのきはみ。みちのおく。うみやまとほく。へだつとも。そのまごゝろは。へだてなく。ひとつにつくせ。くにのため。

四 千島のおくも。おきなはも。やしまのうちの。まもりなり。いたらんくにに。いさをしく。つとめよわがせ。つゝがなく。

第二十一　若紫

一　わかむらさきのめぞはるなる。武蔵野の。
このゝみのおくわけつゝつむ。初若菜。

二　若菜ハなゝふぞきぞしろ。すゞしろほとけの座。
はこべらせり。なづなよ五行をつみちらす。

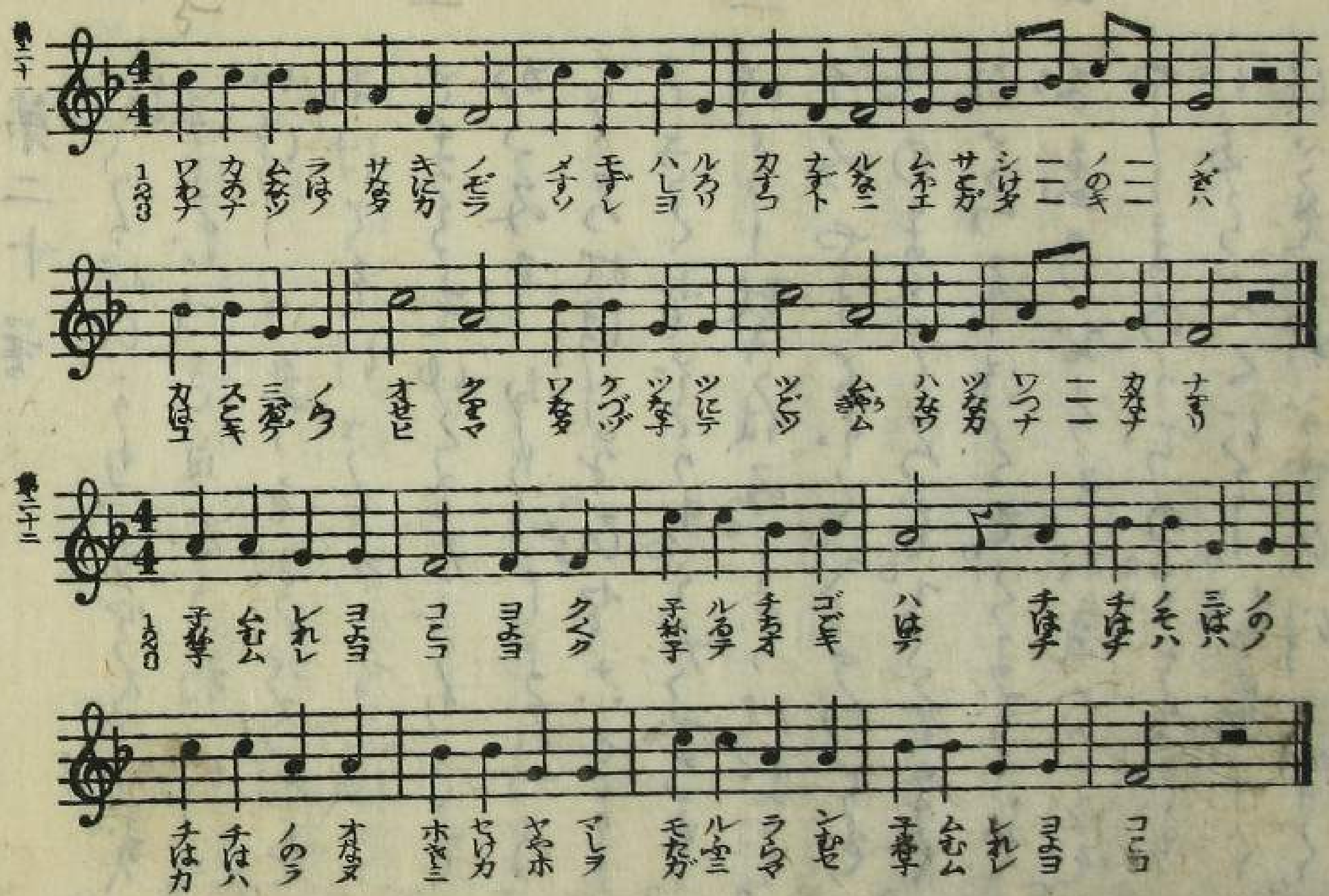
三　なつかれ寝ざめをれよりこゝに浮ぶの影ぞ。
雪消乃ひま尋ねてつむ。わかのなちかり。

第二十二　ねむれよ子

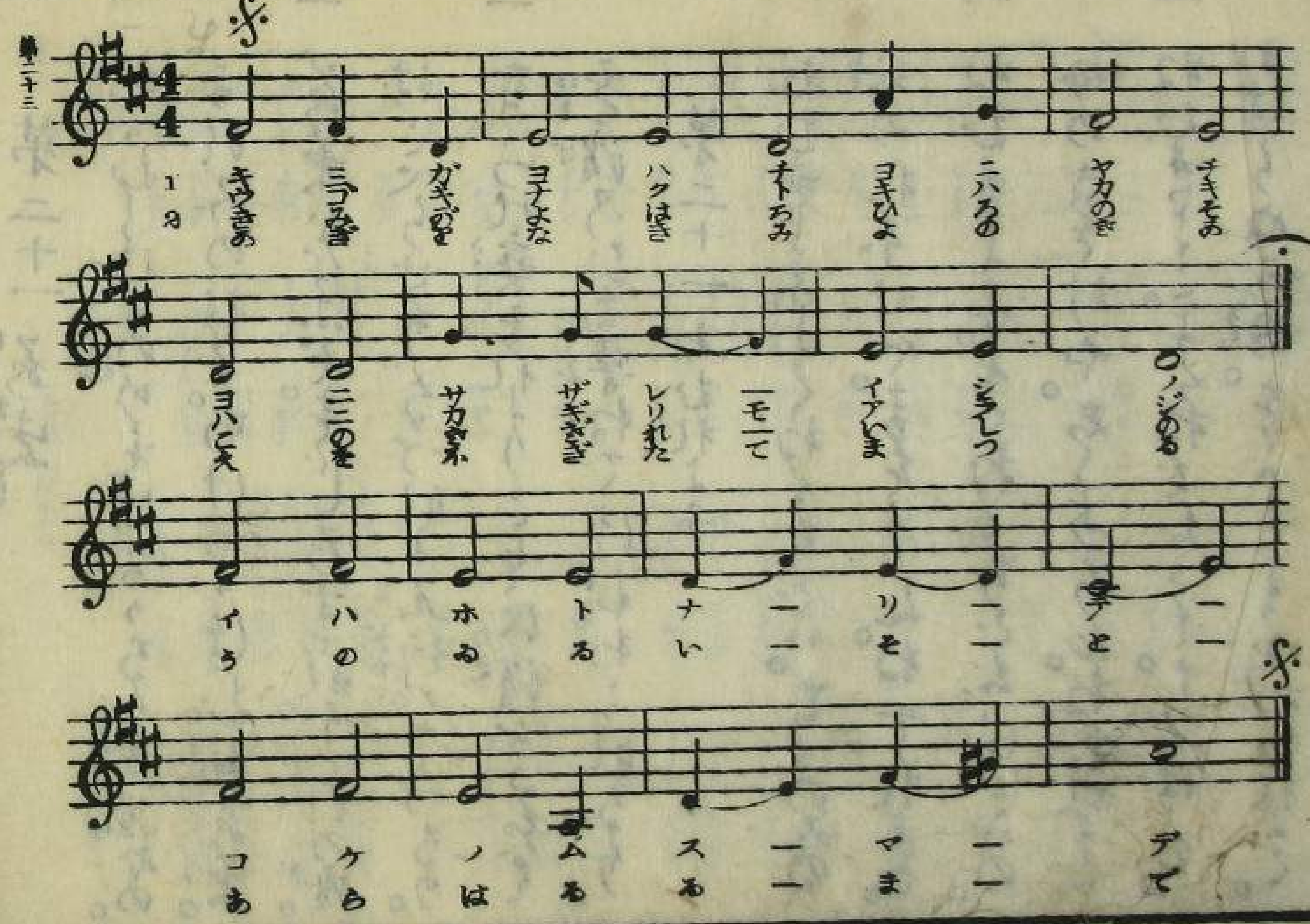
一　ねむれよ子。よくねるちごハ。ちゝのみの。
父のおほせやまもるらん。ねむれよ子。

二　ねむれよ子。よくねるちごは。はゝそばの。
母のなさけやあつからん。ねむれよこ。

三　ねむれよ子。よくねておきて。ちゝはゝの。
かはらぬみ顔。そのまゝを。ねむれよこ。



小學唱歌集
音樂取調掛

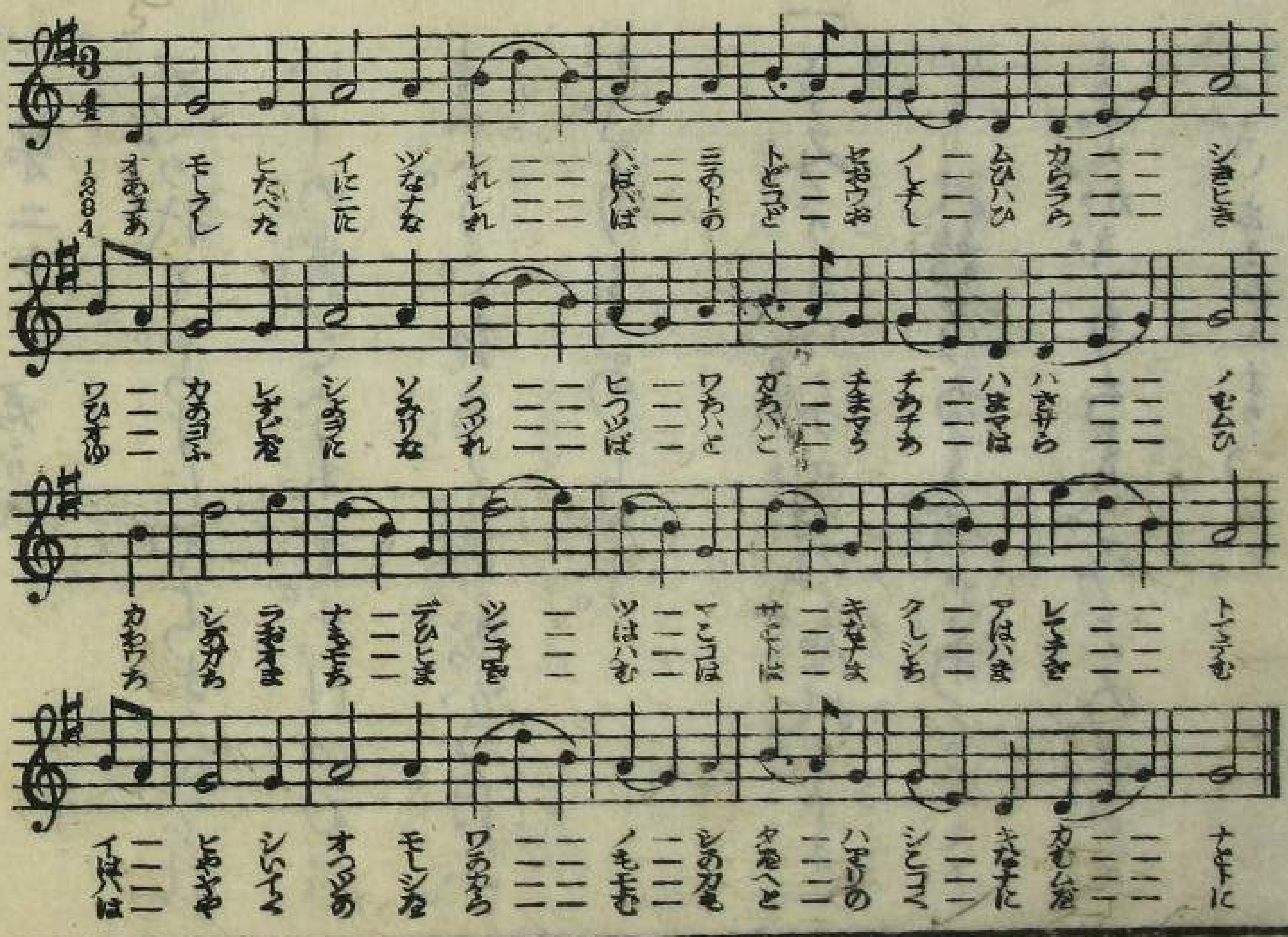


第二十三　君が代

一　君が代は。ちよにやちよにさゞれいしの巌となりてこけのむすまで。うごきなく。常磐かきはに。かぎりもあらじ。

二　きみがよは。千尋の底のさゞれいし。鵜のゐる磯とあらはるゝまで。かぎりなき。みよの栄を。ほぎたてまつらふ。

第二十四



第二十四　思ひいづれバ

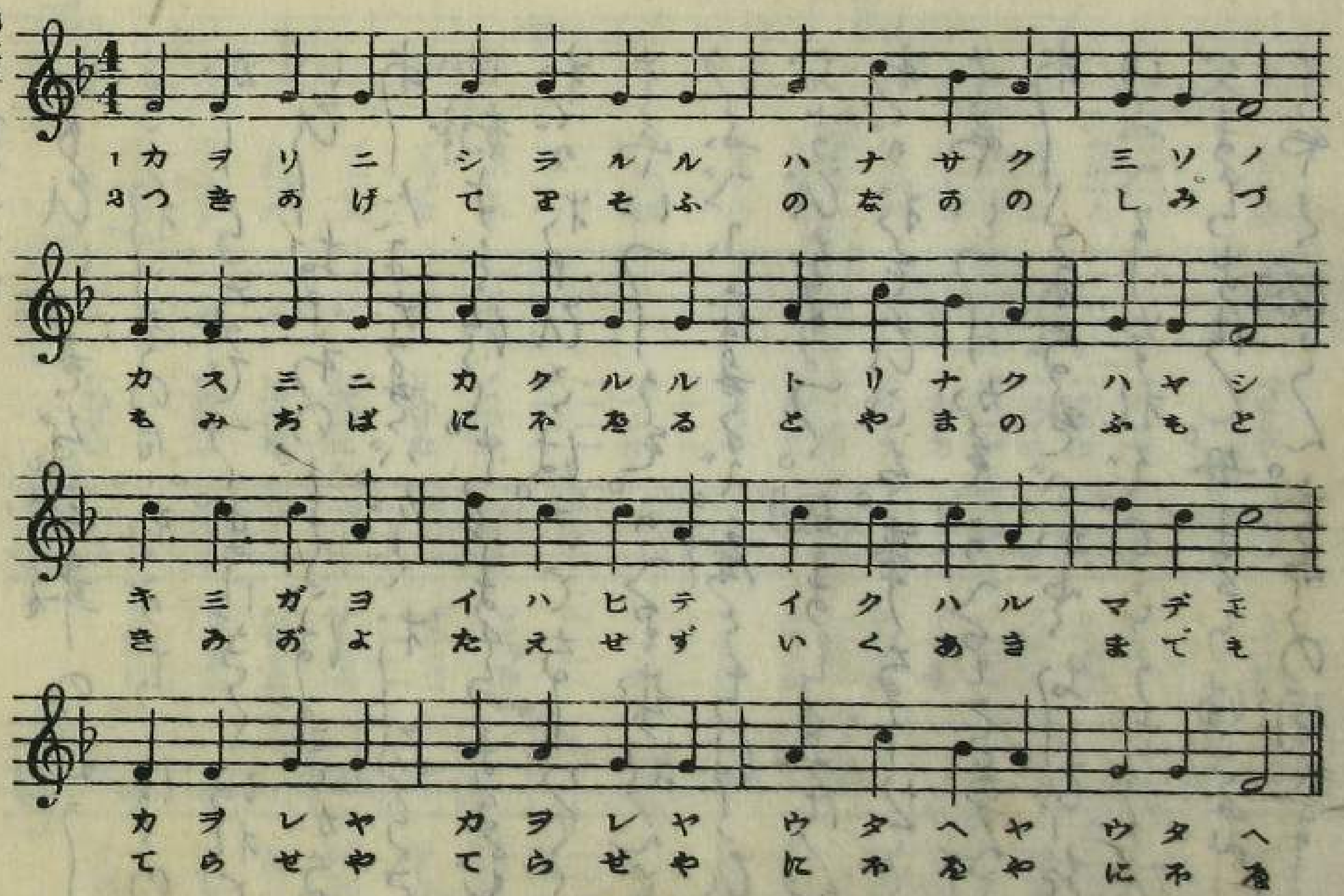
一
おもひいづるぞ。三年（みとせ）のむかし。
まこのわかれしその日。わがちゝはゝの。
かしらなでつゝ。まさきくあれと。
いひしおやの。しゝはこさかな。

二
あしたなまゝバ。かどおしひらき。
日（ひ）ぬ（うず）よすゑはく。ちゝまちまさむ。
わがおやひごは。さいでなりそく。
きやいつしうそ。このへやすまれんと。

三
ゆふべふなせまぞ。床（とこ）うちはらひ。
おもひをりつ。母（はゝ）まちかのけん。
わがおもひごろ。事なすりそく。
きやいつかうそ。このへむこちんと。

四
あしうまちまつバ。かどおしひらき。
ゆふべなりなれバ。とゞうちはらひ。
父まちまけん。母まちゆふみし。
きやくゐらん。そのゝ國（くに）べそ。

第二十五

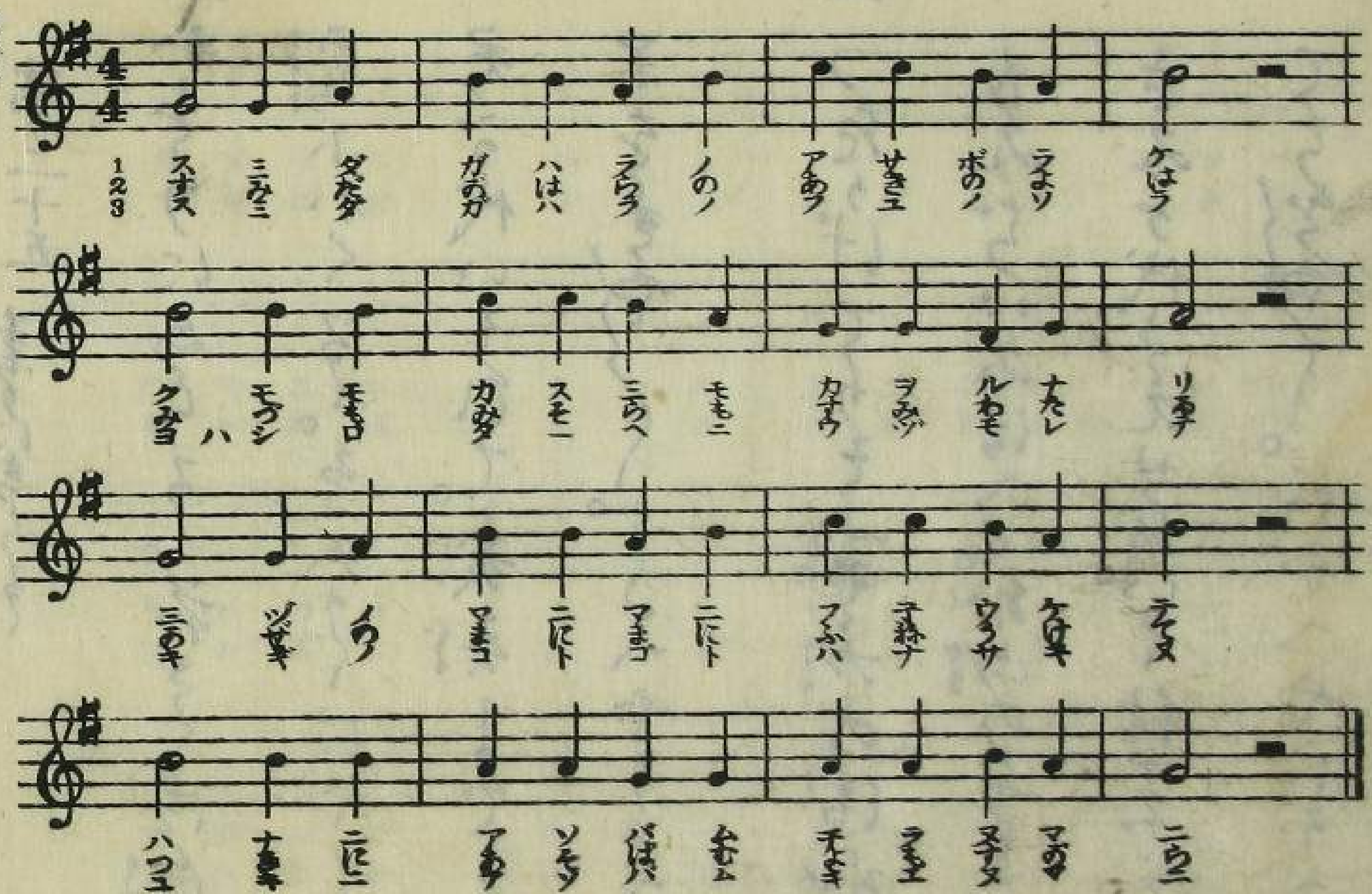


第二十五　薫りにしらるゝ

一　かをりにしらるゝ。花さく園。
霞にかくるゝ。鳥なくはやし。
君が代いはひて。幾春までも。
かをれや〳〵。うたへやうたへ。

二　つきかげてりそふ。野中の清水。
もみぢばにほへる。外山のふもと。
きみが代たえせず。いく秋までも。
てらせや〳〵。にほへやにほへ。

第二十六

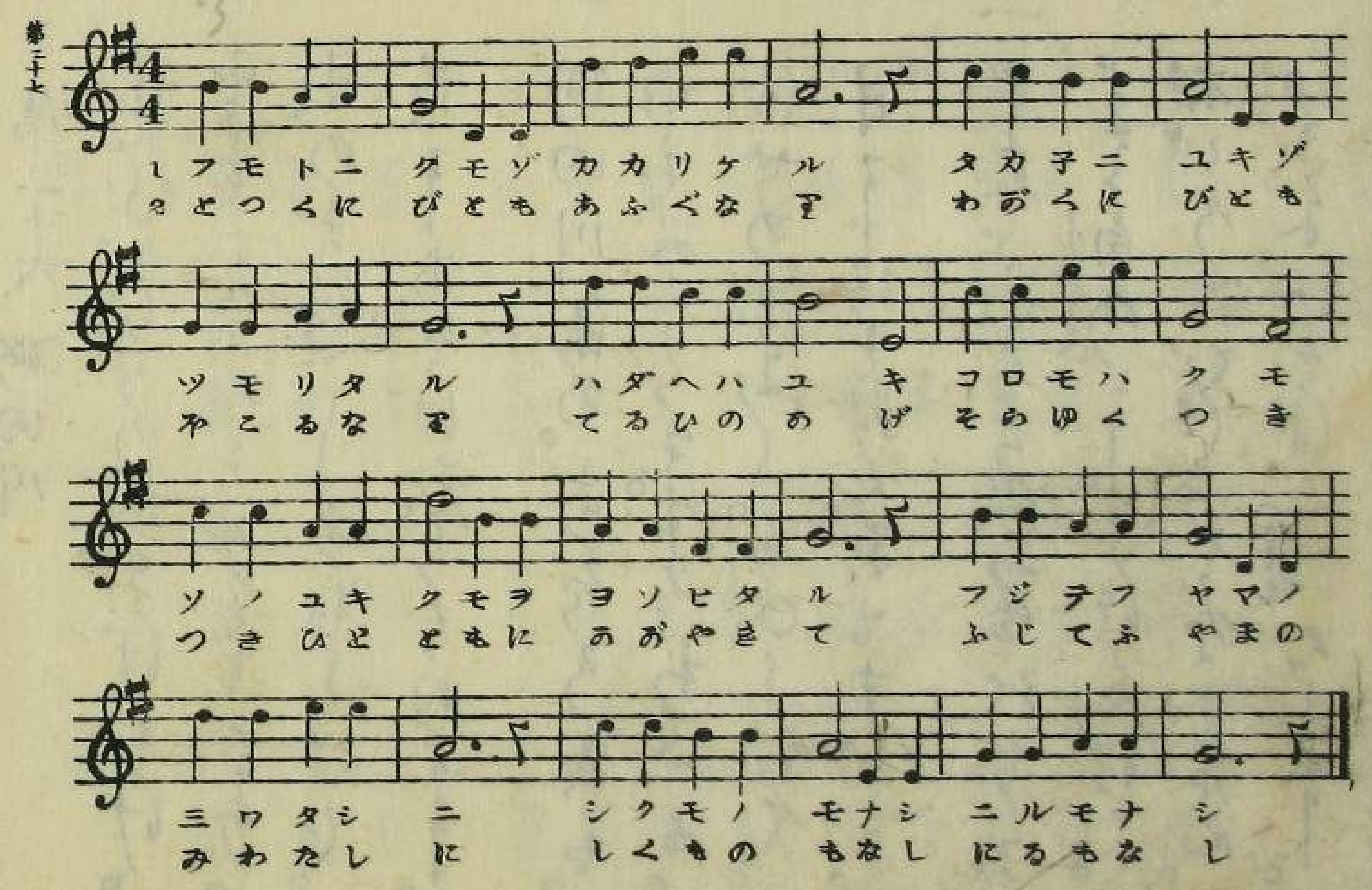


第二十六　隅田川

一　すみだがはらの。あさぼらけ。
霞そこのすみぞこのをちこち。
水のまにまに。ふねうけて。
花をあそばむ。ちらぬまに。

二　隅田川原の。おぼろ夜を。
水ぞみそらぞ。すみわたる。
このせのまにまに。ふねうけて。
月をあそばん。夜もすがら。

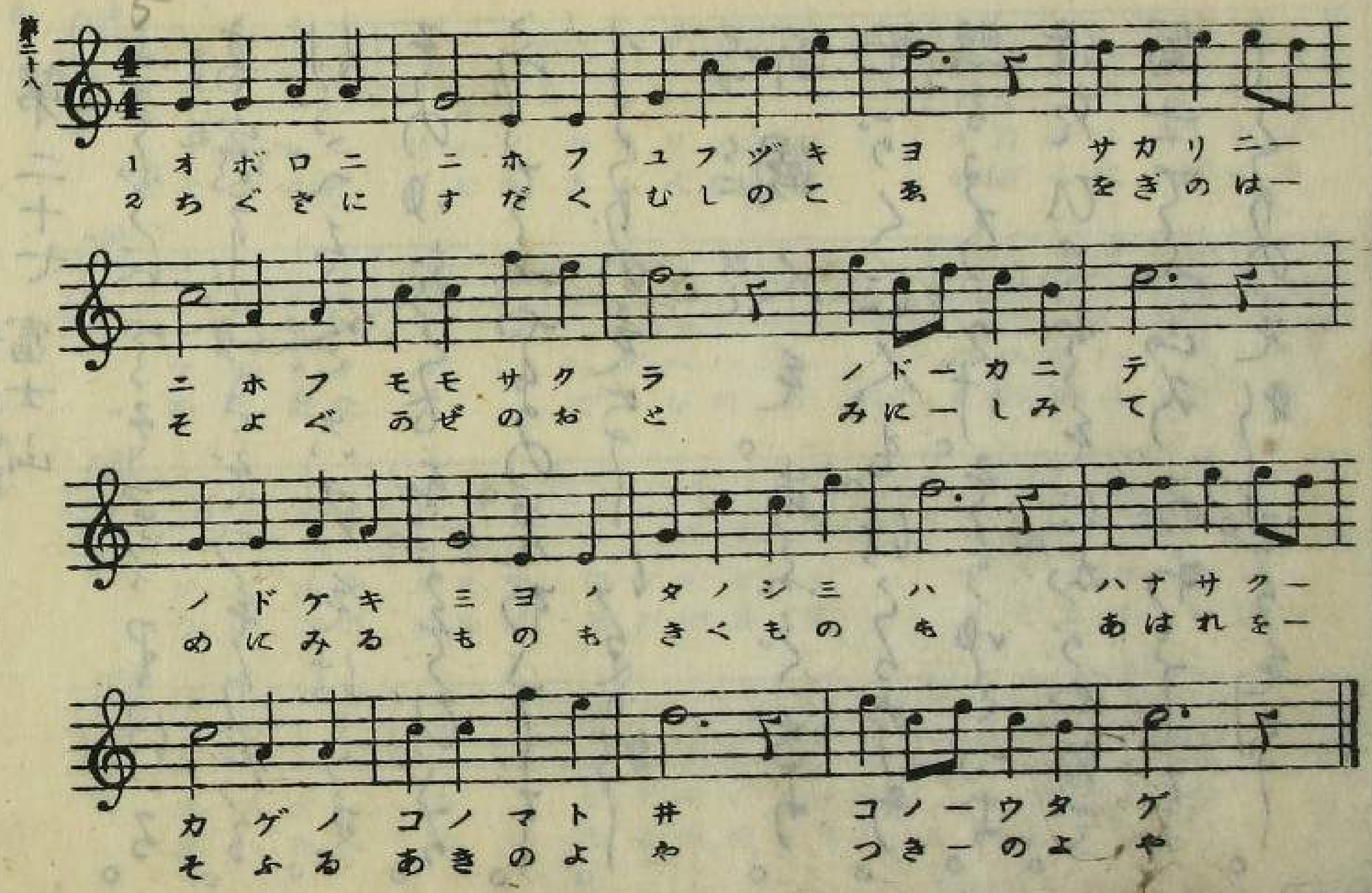
三　すみだがはらの。ふる雪ぞら。
よも白妙(しろたへ)に。おぼろをすて。
木々(きぎ)の花もぞ。さきそめぬ。
ゆきをあそばん。渚(なぎさ)めぐり。



第二十七　富士山

一　ふもとに雲ぞ。かゝりける。高嶺に雪ぞ。つもりたる。はだへは雪。衣はくも。そのゆきくもを。よそひたる。ふじてふ山の。みわたしに。しくものもなし。にるもなし。

二　外國人も。あふぐなり。わがくに人も。ほこるなり。照る日のかげ。そらゆくつき。つきひとゝもに。かゞやきて。冨士てふ山の。みわたしに。しくものもなし。にるもなし。

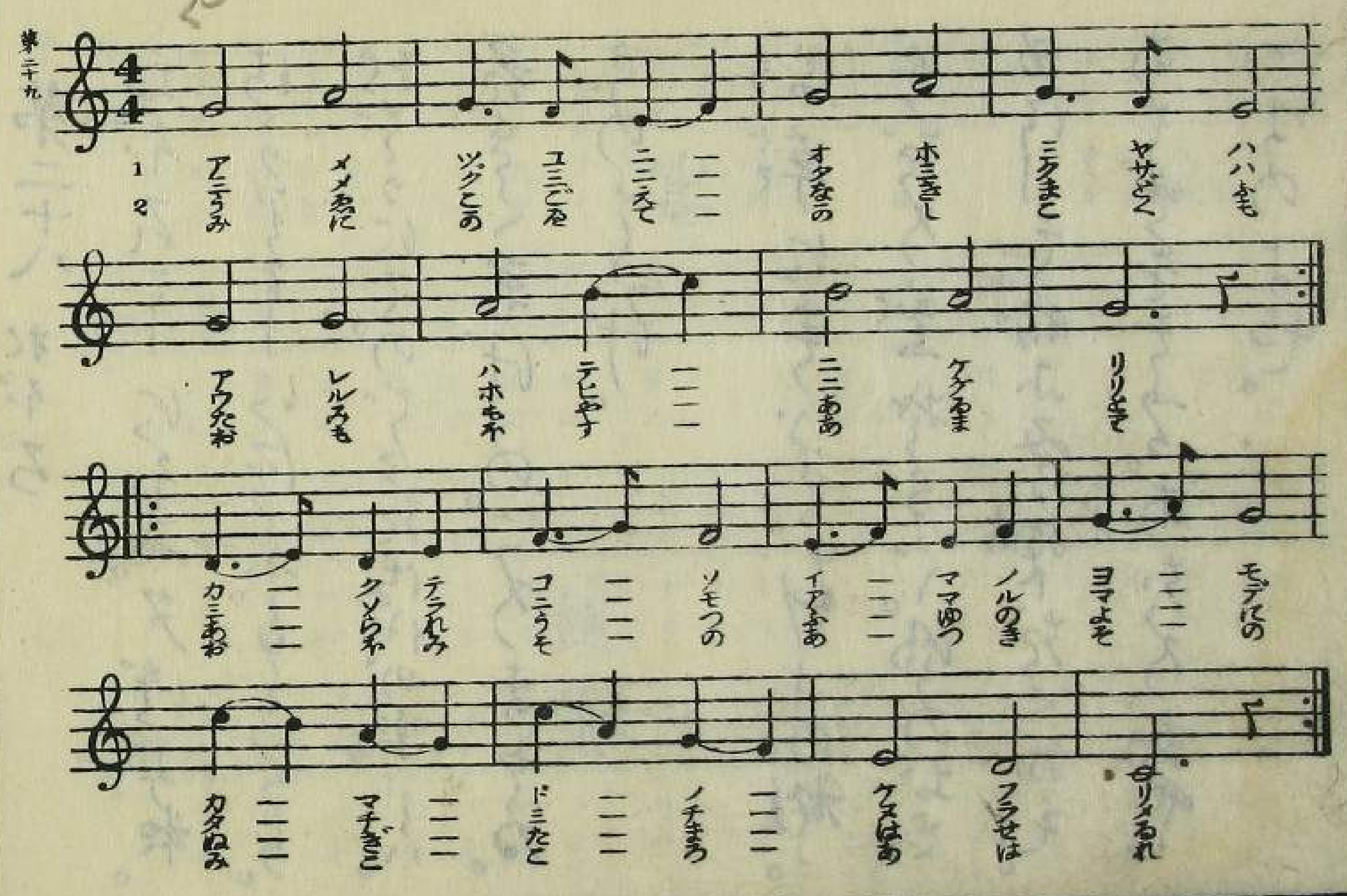


第二十八 おぼろ

一 おぼろににほふ。夕づきよ。
さかりににほふ。もゝさくら。
のどかにて。のどけき代の楽しみは。
花さくかげの。このまゐの。
このうたげ。

宴 團欒

二 ちぐさにすだく。むしの聲。
をぎの葉そよぐ。風のおと。
身にしみて。目にみる物。きく物も。
あはれをそふる。あきの夜や。
つきのよや。



第二十九 雨露

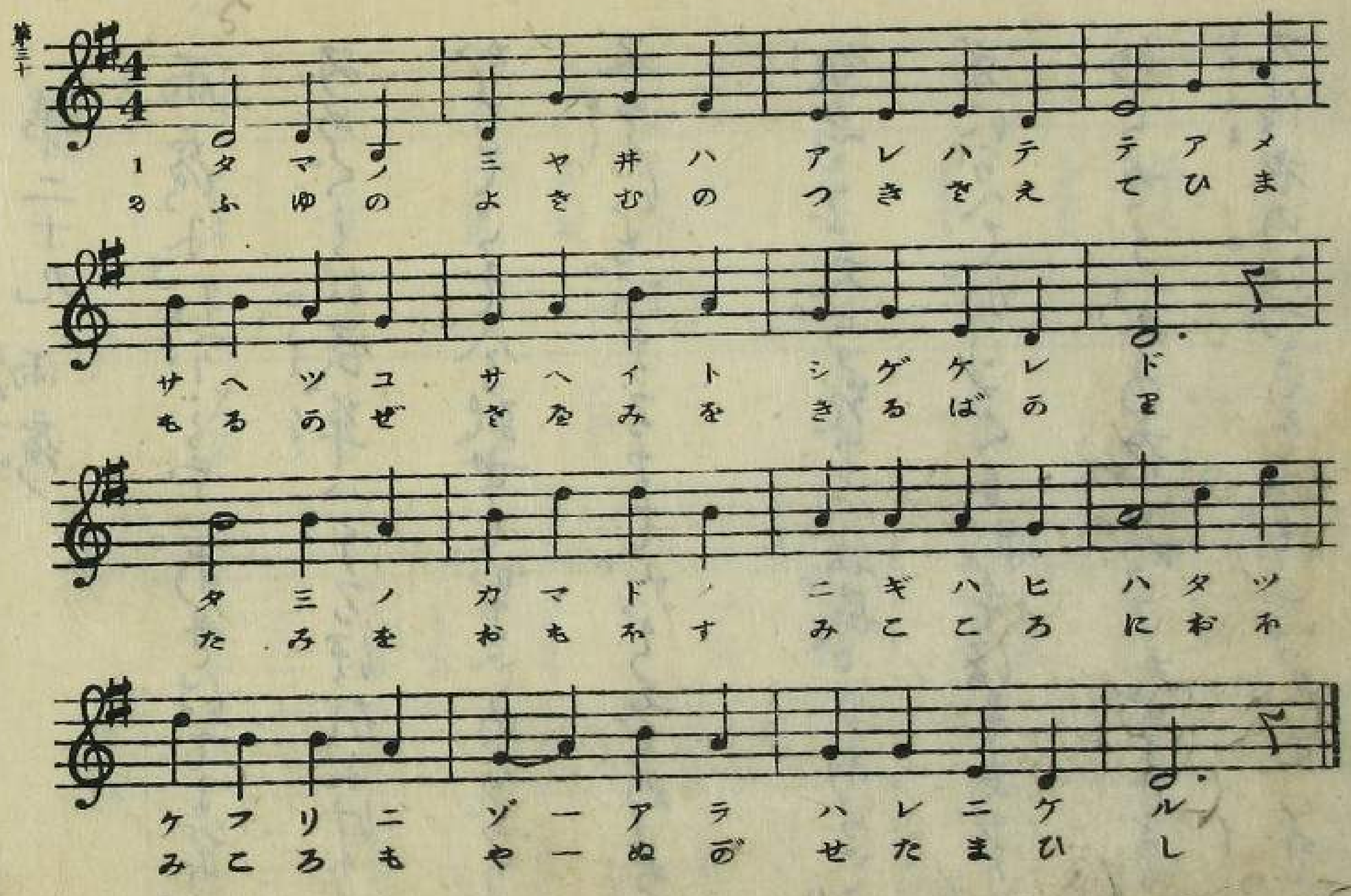
一 雨露に。おほふやハ。あまきはてなり。
みめぐみに。民草ハ。うるほひにけり。
かくてこそ。今此世も。かまどのけぶり。
み空にも。のぼるまで。たちみちぬらめ。

二 飢こごえ。ちまたにまどふ。民もやあると。
身にしみて。かしこくもおもほしあり。
いとさむき。冬の夜に。ぬぎたまハせる。
大御衣の。ひとつきこその。はたいろあはれ。

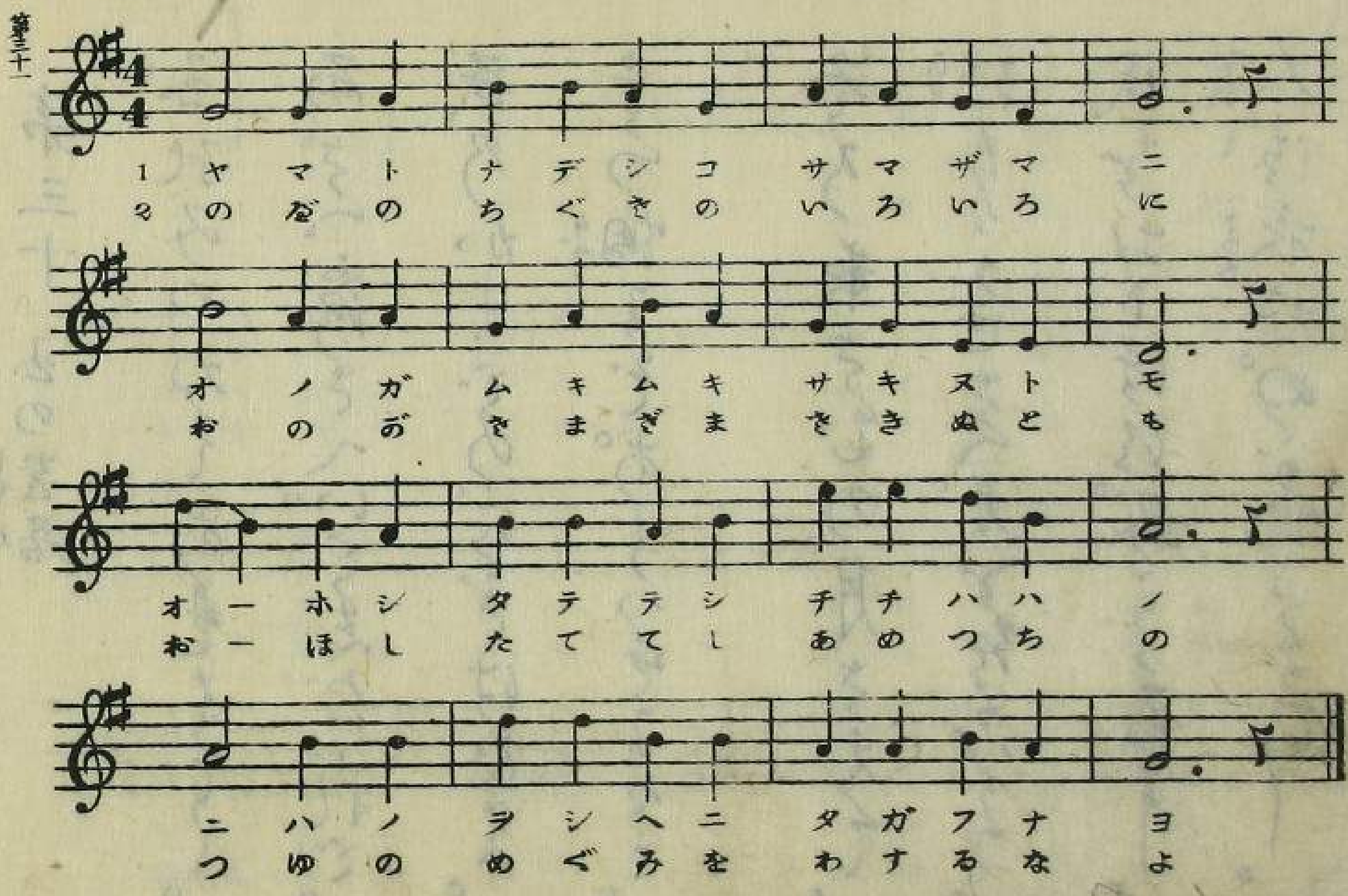
第三十 玉の宮居(みやゐ)

一 玉のみやゐはあれはてて。
雨さへ露さへいとしげけれど。
民のかまどのにぎはひは。
たつ烟(けふり)にぞあらはれける。

二 冬の夜さむの月さえて。
隙(ひま)もるかぜさへ身をきるばかり。
民をおもほすみこころに。
大御衣(おほみころも)やぬがせたまひし。



第三十一



第三十一 大和撫子(やまとなでしこ)

一
やまとなでしこ。さまざまに。
おのがむきむき。さきぬとも。
おほしたてし。ちちははの。
庭(には)のをしへに。たがふなよ。

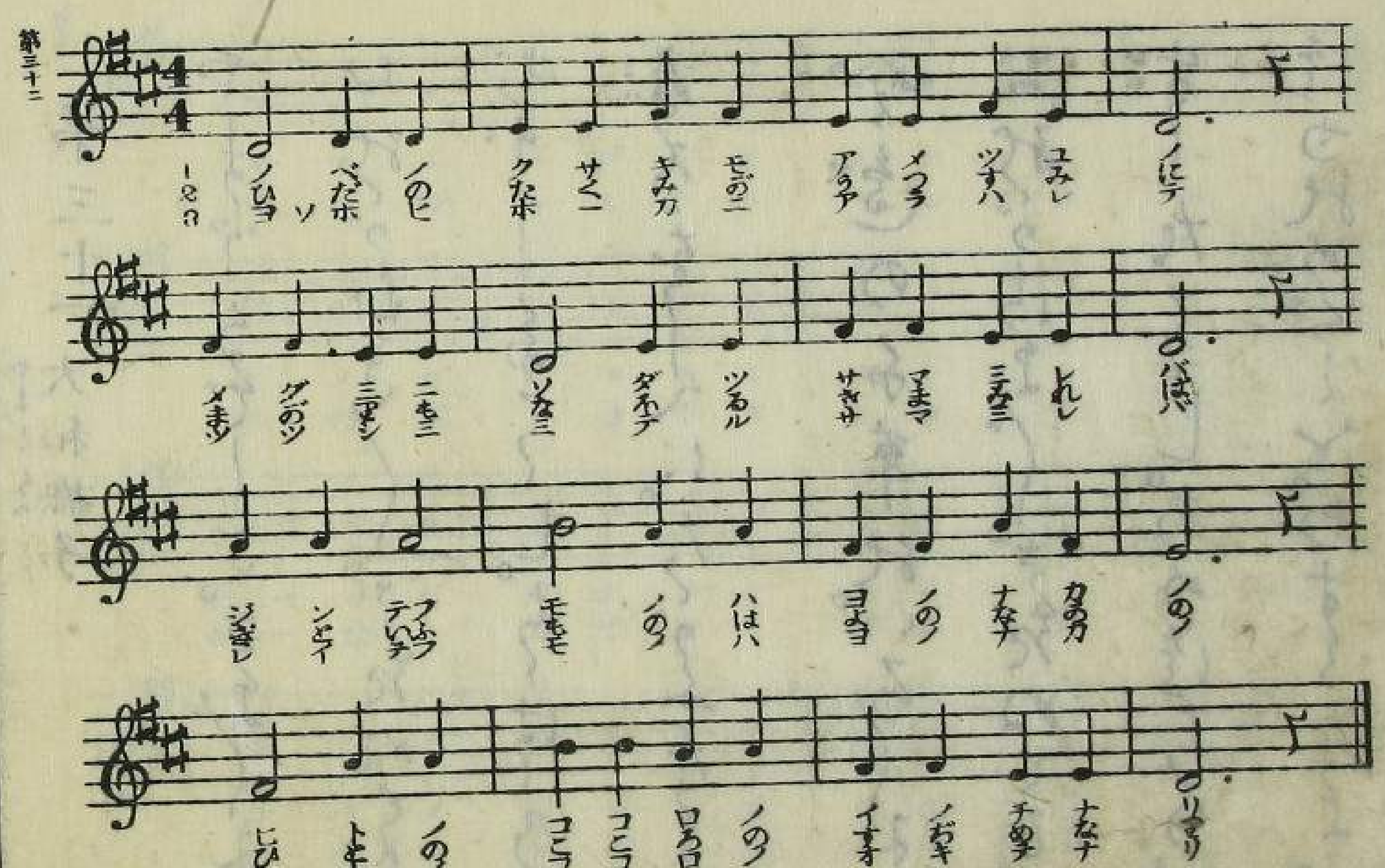
二
野辺(のべ)の千草の。いろいろに。
おのがさまざま。さきぬとも。
生(おほ)したてし。あめつちの。
つゆのめぐみを。わするなよ。

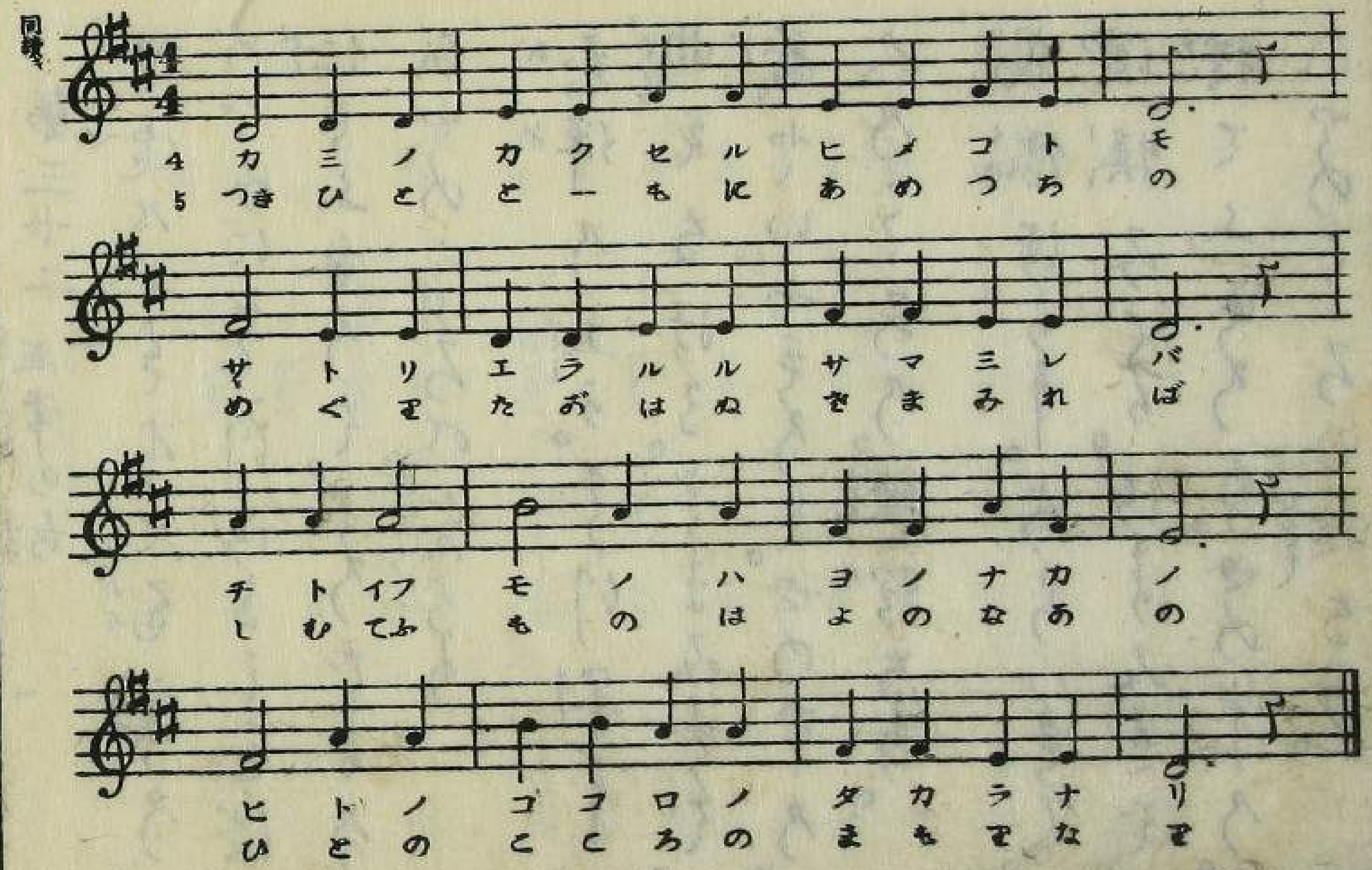
第三十二　五常の歌

一
野邊乃くさ木も。雨露乃。
めぐみにそだ川。ためしをば。
仁てふものぞ。よろづのもの乃。
ひとのこころは。命なり。

二
飛彈乃工が。うつ墨り。
曲をなほる。ごとまみまぞ。
義といふものぞ。世の中乃。
人のこころ乃。條理なり。

三
威儀ほどのし。あらはして。
謹慎みてる。ほまみきぞ。
禮てふものぞ。世の中乃。
ひとのこころの。掟なり。

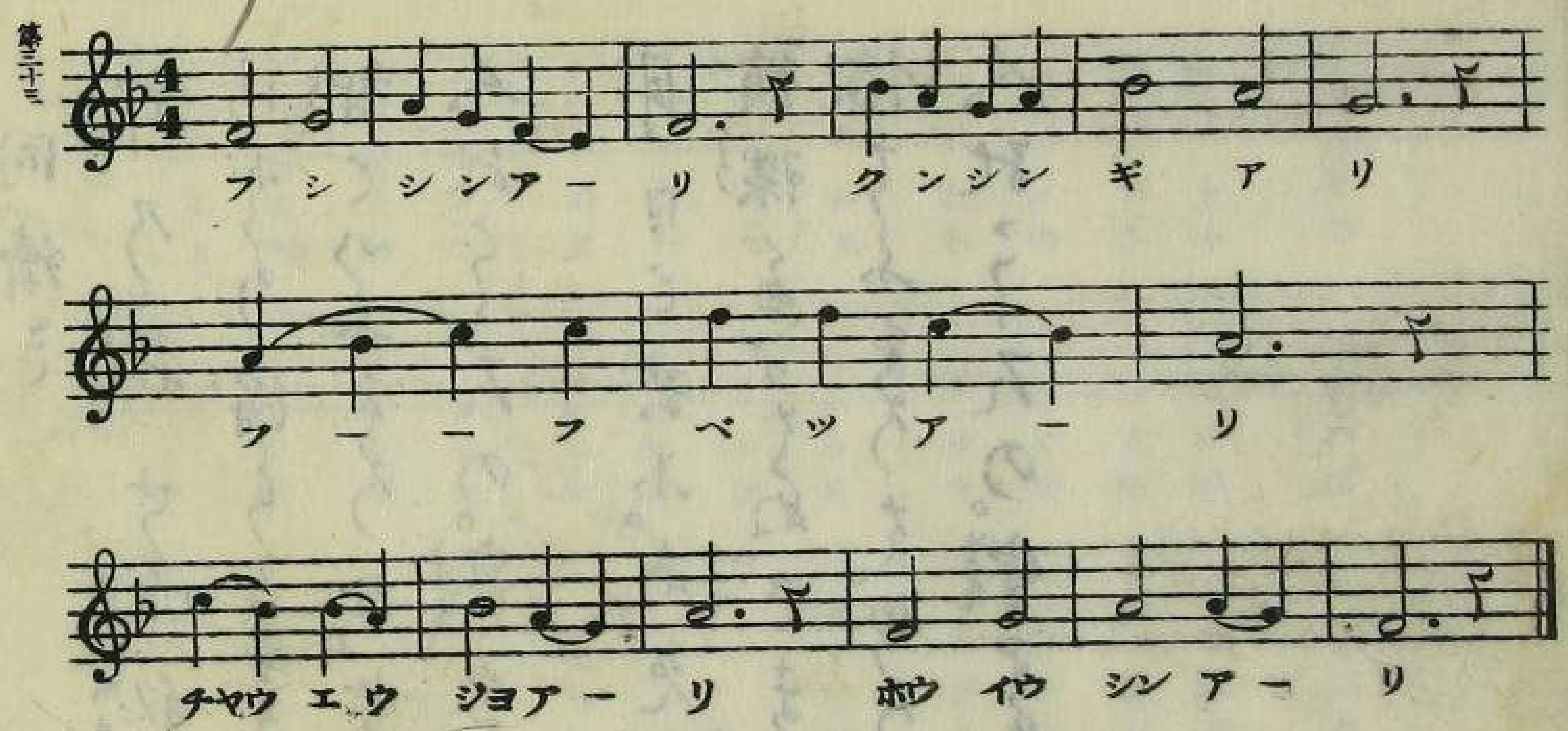




同續き

四 神乃隠せる。秘事も。はかり得らるゝさまみれば。智といふものは。世の中の。人のこゝろの。寶なり。

五 月日と共に。天地乃。循環たがはぬ。さまみても。信といふものは。世乃中乃。人のこゝろの。守なり。



第三十三　五倫の歌

父子親あり。君臣義あり。
夫婦別あり。長幼序あり。
朋友信あり。

明治十四年十一月出版届

文部省藏版々權所有

明治十四年十一月
二十四日出版版權届

定價金八錢